

## 第Ⅲ章 調査の記録

### 第1節 第I期(Xb～XI層)の調査(第7図～16図)

第I期は、姶良Tn火山灰層下位のX層下部3分の1を占める第Xb層から第XI層上部数cm以内に遺物が分布し、調査区北端部に集中区がある。なお、石器石材の特徴は、第2表に記載している。

第X層黒褐色土(10YR2/2)は、硬質でブロック状に割れ、径1～5cm程の円礫を含んでいる。層厚が約40cmと大変厚く、便宜的に上部2/3をXa、下部1/3をXb層として記録した。またこの層はかなり固く、掘削していく作業員の負担も大きかったため、各グリッドにL字型のトレンチを設定し、これらの中を第XI層まで掘削していく。トレンチ内に剥片等がまとまって確認されれば、トレンチ外周辺まで範囲を広げるという方法で調査を行っていった。最終的には、第XI層上部までの掘り下げを行った箇所は、調査区全体の約半分(第7図)におよんだ。

#### (1) 出土石器(第8図～9図-1～9)

第I期の石器は、調査区北部のK-4グリッド付近を中心に出土し、合計83点を確認した。その内訳は、礫器2点、微細剥離ある剥片1点、剥片・碎片71点、石核6点、敲石2点、台石1点である。石材は、流紋岩(特にRIV類)、ホルンフェルスを中心としている。

1・2は、大形の偏平な円礫を同一方向から数回打撃を加え刃部を形成する片面礫器である。1はhō製、2は凝灰岩製である。これらは石核とも考えられる。しかし、礫器と認定したのは、刃部が60度以下の鋭角なもので、本遺跡の他時期石器に比べ、第I期は、総出土石器数に対し、剥片石器の割合が少なく(第1表)、礫器製作を目的としたものと考えられるからである。

3は、不定形の剥片で表面に自然面を残し、右側縁に微細剥離がある。RI類製である。

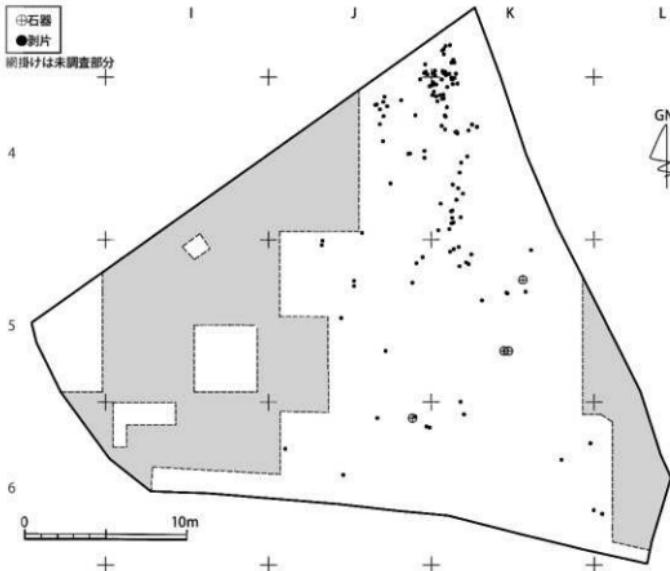
4～7は剥片である。4は縦長な剥片で上端に作業面調整がある。RI類製である。5・6は横長な剥片で、5はRII類、6はRIII類製である。7は不定型な剥片でRIV類製である。

8は敲石で端部に敲打痕がある。砂岩製である。

9は台石で、砂岩製である。

	流紋岩				ホルンフェルス	チャート	砂岩	凝灰岩	花崗斑岩	黒曜石	合計
	I類	II類	III類	IV類							
礫器	0	0	0	0	1	0	0	1	0	0	2
微細剥離ある剥片	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
剥片・碎片	16	7	4	23	21	0	0	0	0	0	71
石核	1	0	1	1	3	0	0	0	0	0	6
敲石	0	0	0	0	0	0	2	0	0	0	2
台石	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
合計	18	7	5	24	25	0	3	1	0	0	83

第1表 第I期出土器石材別組成表

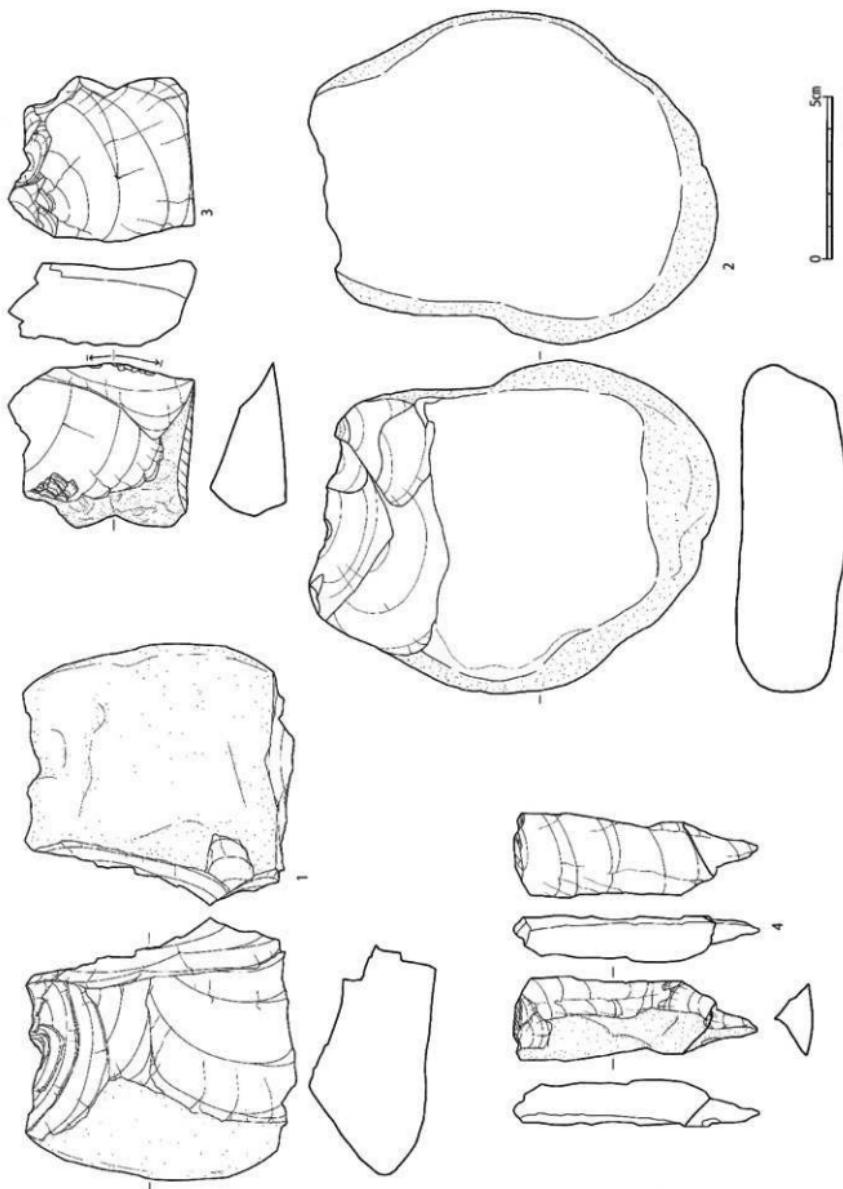


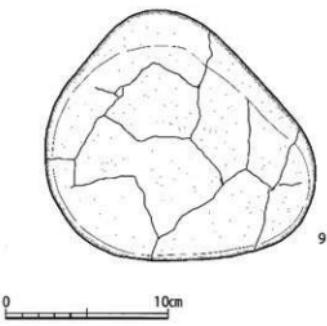
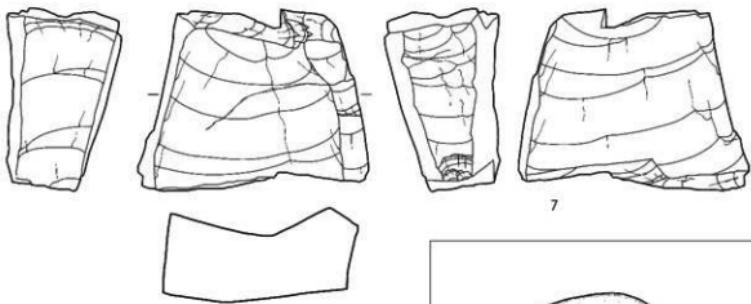
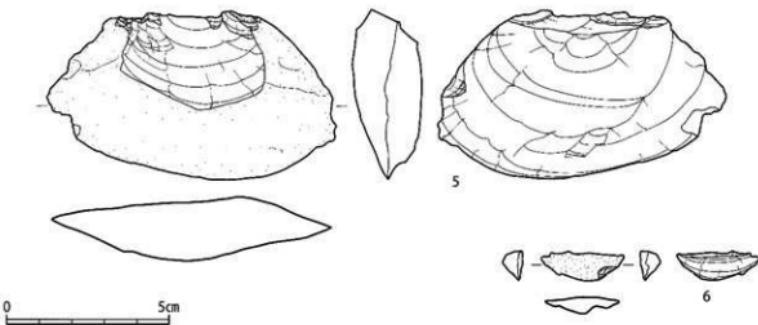
第7図 第Ⅰ期検出状況図 ( $S = 1/300$ )

石 材 名	特 徵
流 紋 岩 I 類	略号「R I」。灰白色～灰黄色系の一群である。雲状、縞状の模様を含むものが多い。表面がやや粗く風化の進んでいるものもある。
流 紋 岩 II 類	略号「R II」。灰色～暗灰色系の一群である。雲状、縞状の模様を含むものが多い。暗灰色系のものは、光沢がある。
流 紋 岩 III 類	略号「R III」。黒色系の一群である。
流 紋 岩 IV 類	略号「R IV」。暗赤褐色系の一群である。鉄分沈着の認められるものが多く、雲状、縞状の模様を含むものが多い。
ホルンフェルス	略号「h o」。暗灰色～黒灰色系の一群である。
チ ャ ー ト	青灰色系の剥片等とオリーブ灰色系の台石・敲石がある。
砂 岩	細粒なものも含め「砂岩」としてまとめる。
凝 灰 岩	礫群の構成礫などに用いられることが多い。
花 岩 斑 岩	礫群の構成礫などに用いられることが多い。
黒 曜 石	黑色系の剥片が出土している。

第2表 主要石器石材分類表

第8圖 第1期石器實測圖1 ( $S = 2/3$ )

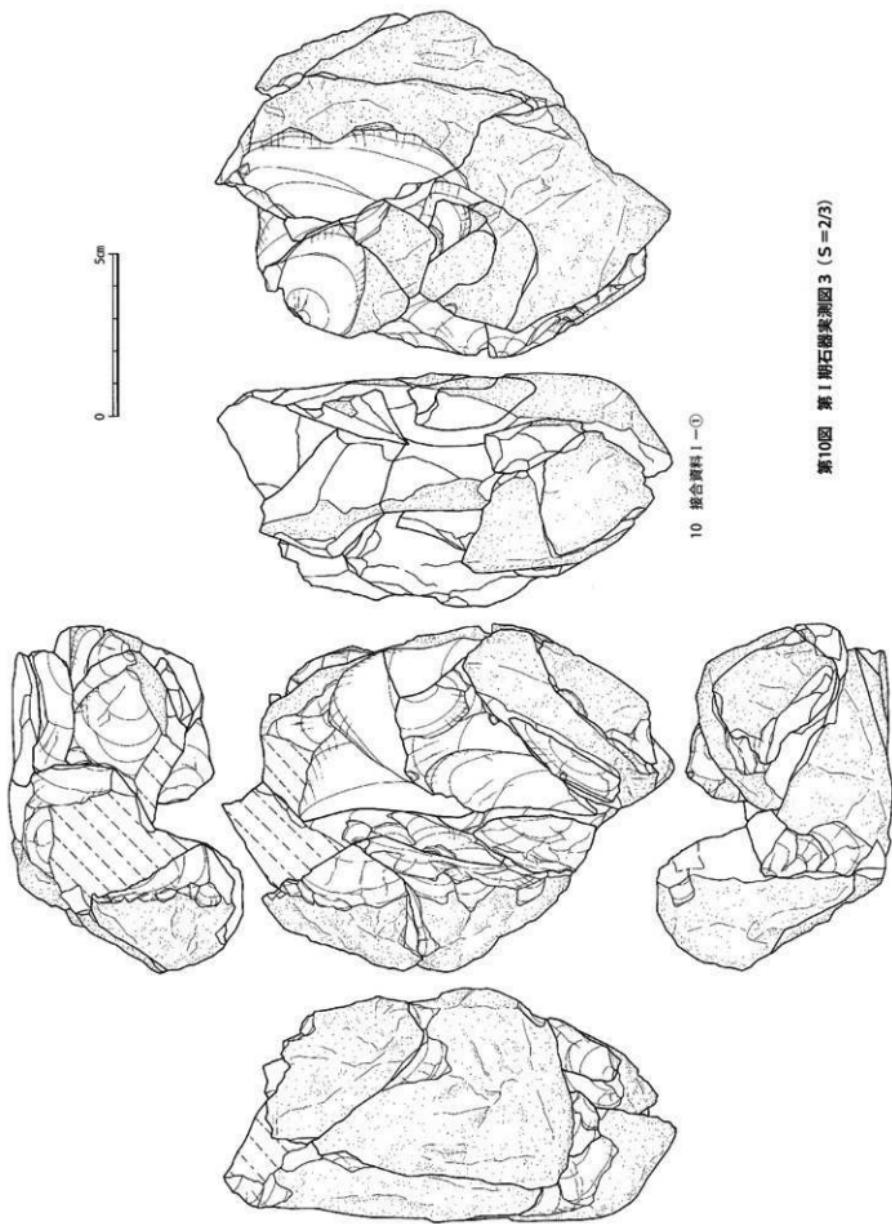




第9図 第1期石器実測図2 ( $S = 2/3$ )、( $S = 1/3$ )

第10圖 第1期石器測量圖 3 ( $S=23$ )

10 接合圖 1-①

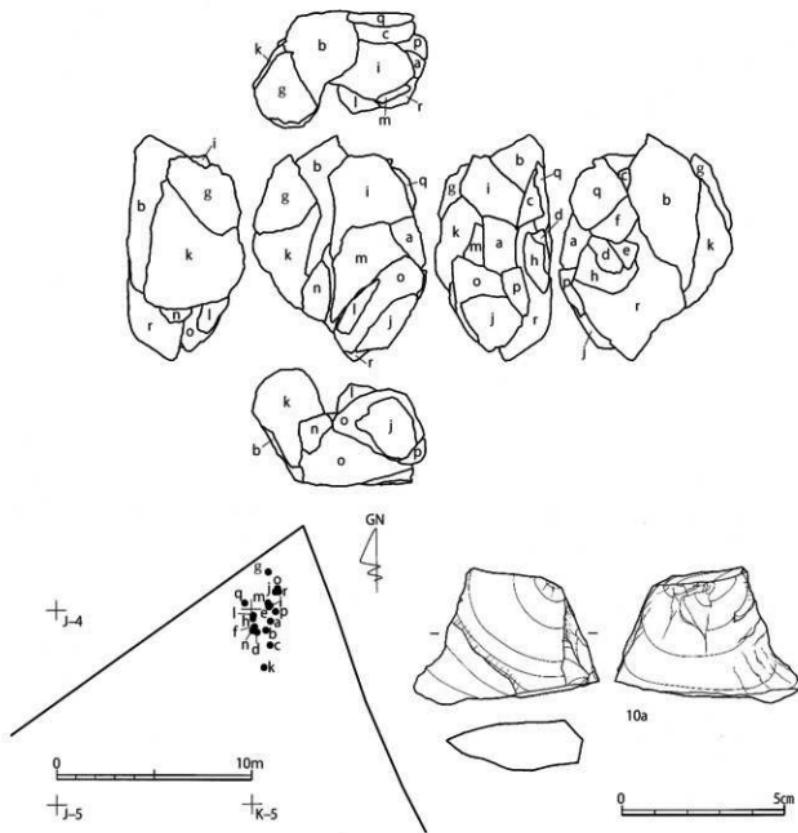


(2) 接合資料(第10図～16図)

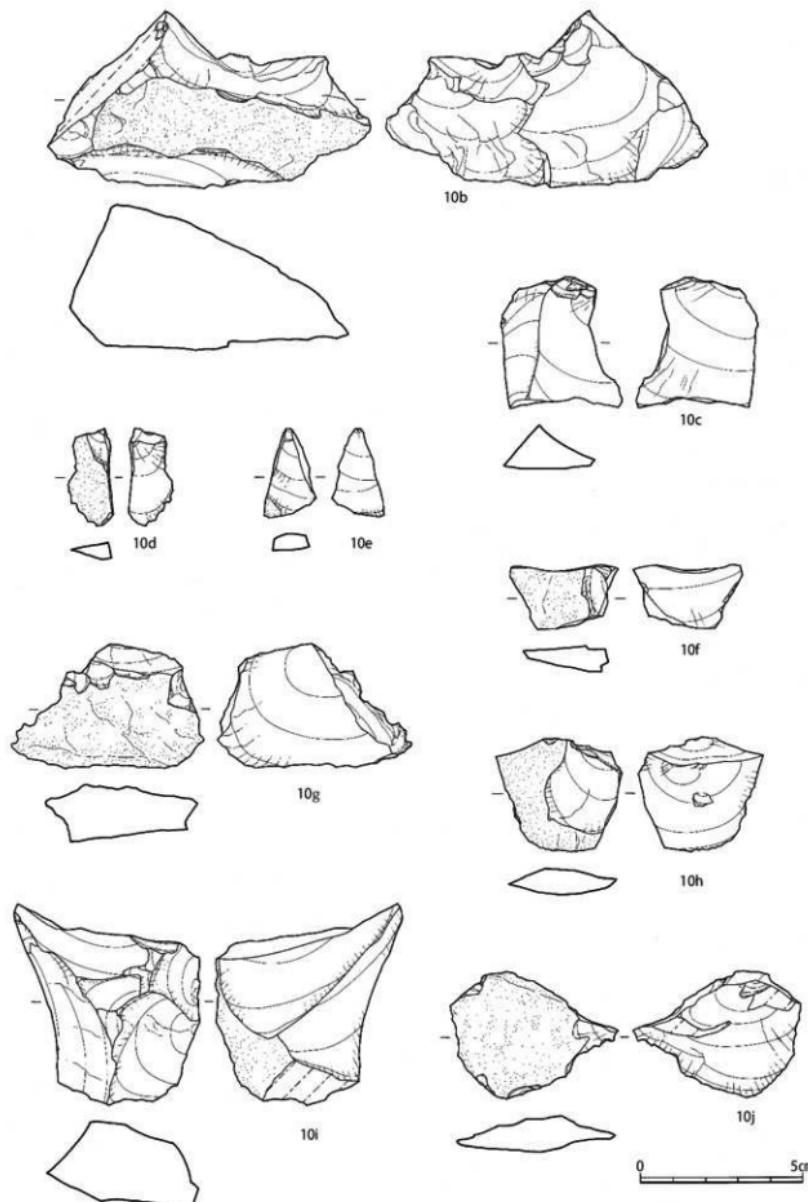
接合資料は10例確認された。そのうち4例の図化を行った。

[接合資料10] (第11・12・13図)

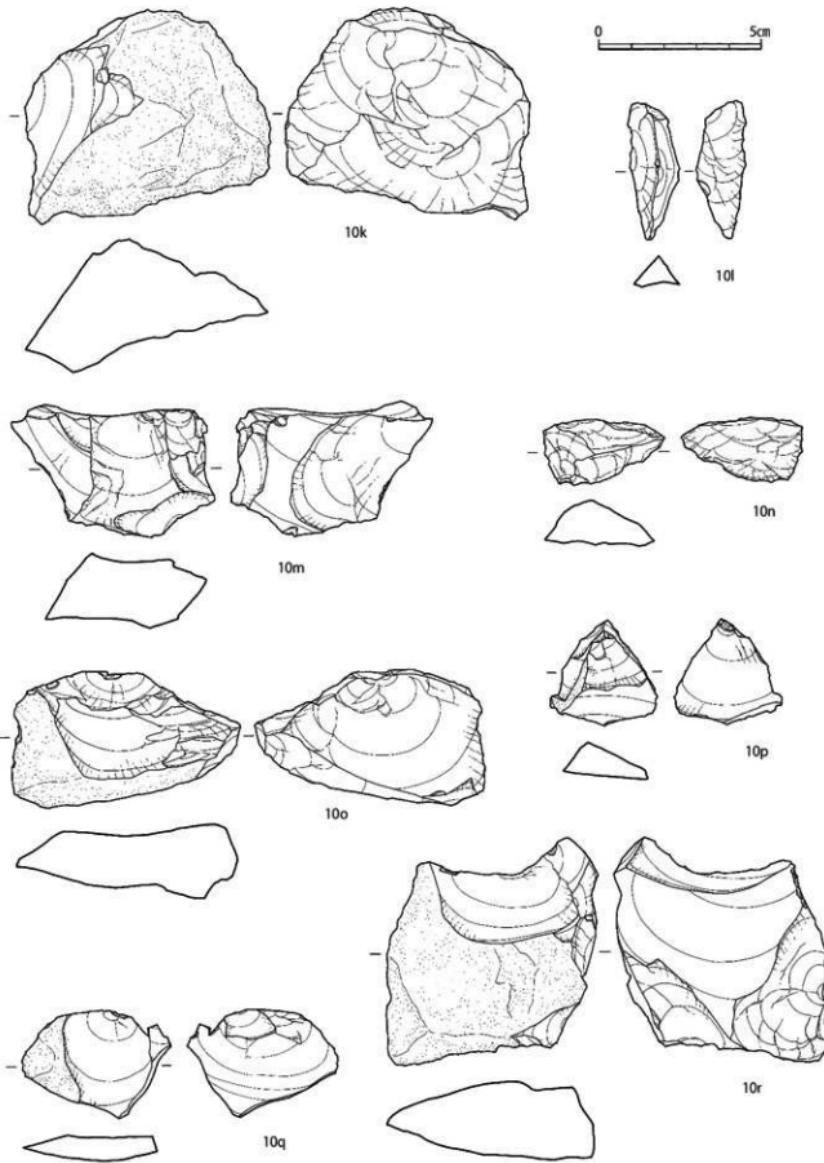
10接合資料I-①は、RIV類製で剥片18点が接合している。いずれも調査区北端部、K-4 グリッド付近に集中して出土した。素材は長径約14cm、短径約11cm程度の亜円礫である。正面中央部を大きく打ち欠き、二分割した後、それぞれに形成された分割面を打面とし、大型の剥片を作出している。その後、頻繁に打面を転移させながら剥離を行っており、得られた剥片は厚みがあり、自然面が見られる不定形のものが多い。10a+10l、10d+10e、10q+10fは、それぞれ1枚の剥片であり、剥片剥離の衝撃で節理により偶発的に割れたものである。



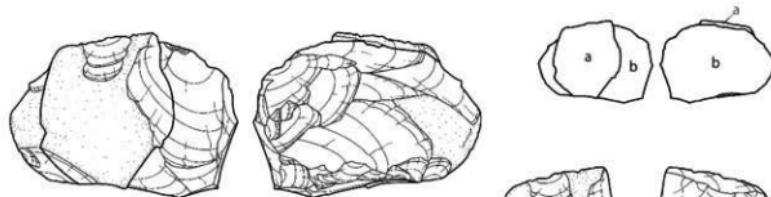
第11図 第Ⅰ期石器実測図4 ( $S=2/3$ ) 接合資料I-①分布図 ( $S=1/250$ )



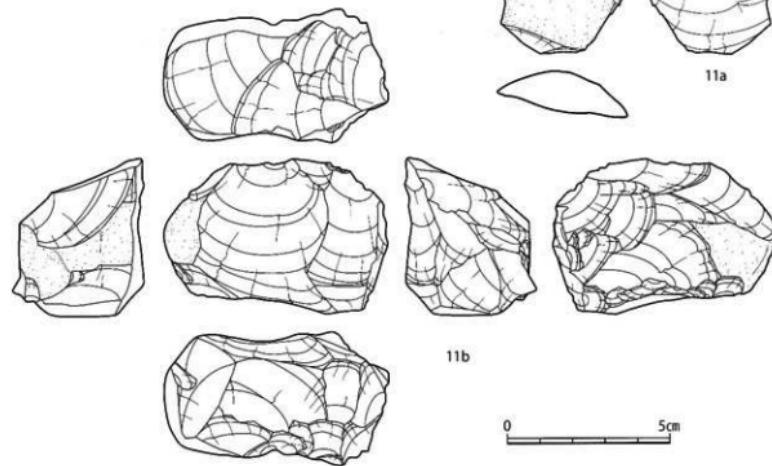
第12图 第Ⅰ期石器实测图5 (S=2/3)



第13図 第Ⅰ期石器実測図6 (S=2/3)



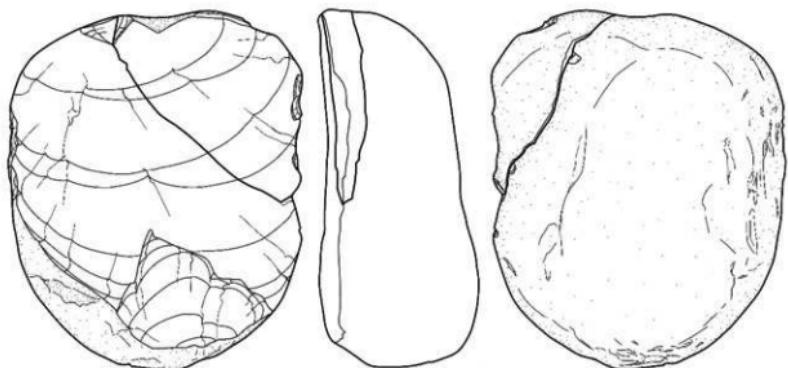
11 接合資料 I -②



11a

11b

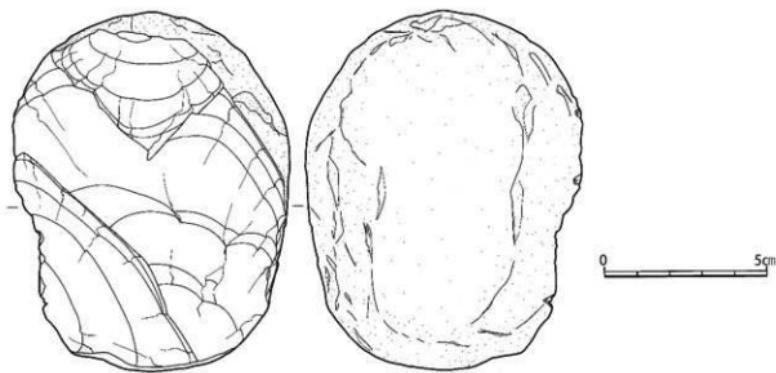
0 5cm



12 接合資料 I -③

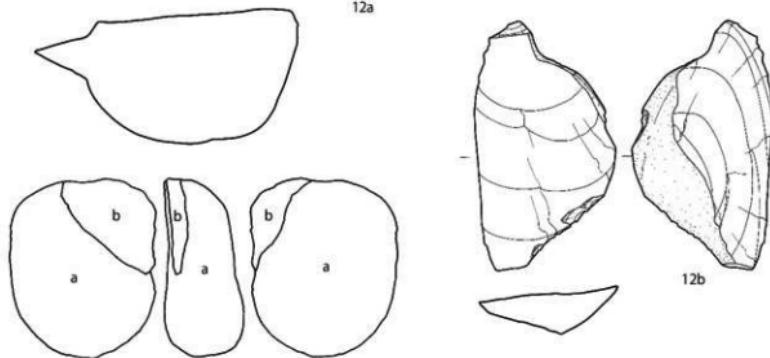
0 5cm

第14図 第Ⅰ期石器実測図7 (S=2/3)

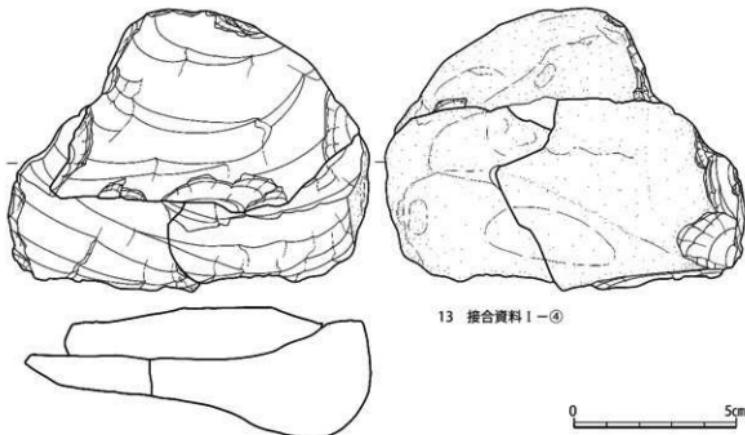


12a

0 5cm



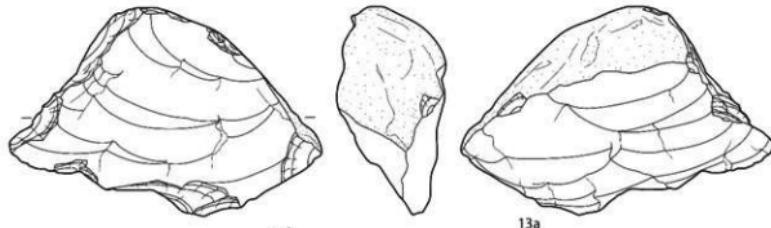
12b



13 接合資料 I -④

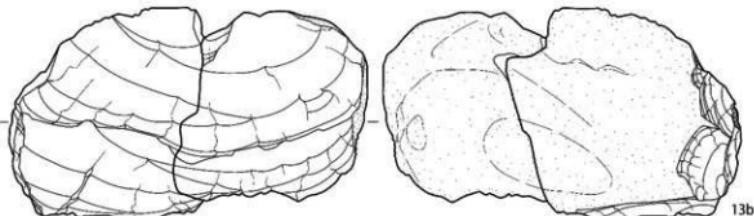
0 5cm

第15図 第Ⅰ期石器実測図8 (S=2/3)

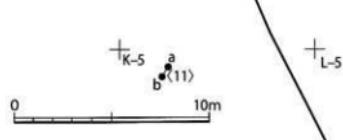
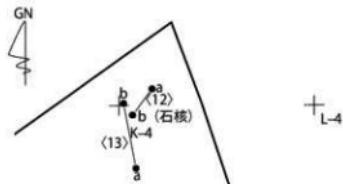


13a

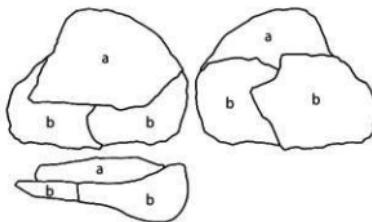
0 5cm



13b



0 10m



## [接合資料11] (第14図)

11接合資料I-②は、RIV類製で剥片1点、石核1点が接合している。調査区北部、K-5グリッド付近から出土した。素材は径6cm程度の円礫だと考えられる。

## [接合資料12] (第14・15図)

12接合資料I-③は、ho製で剥片2点が接合している。調査区北端部、K-4グリッド付近で出土した。

拳大の橢円な亜円礫を二分割し、自然面からの打撃で12bの剥片を作出している。

## [接合資料13] (第15・16図)

13接合資料I-④は、ho類製で剥片2点が接合している。調査区北端部、K-4グリッド付近で出土した。素材は拳大の亜円礫だと考えられる。裏面中央部から剥片を作出している。

第16図 第Ⅰ期石器実測図9 (S=2/3) 接合資料I-②・③・④分布図 (S=1/250)

## 第2節 第II期(Xa層)の調査(第17図~38図)

第II期は、始良Tn火山灰層直下からX層上部の厚さ10~20cmに遺構・遺物が分布している。遺構は、礫群2基でいずれも調査区南東側で検出した。調査区北端部、南側、南東側の3箇所に遺物の集中区がある。

### (1) 磕群(第18図)

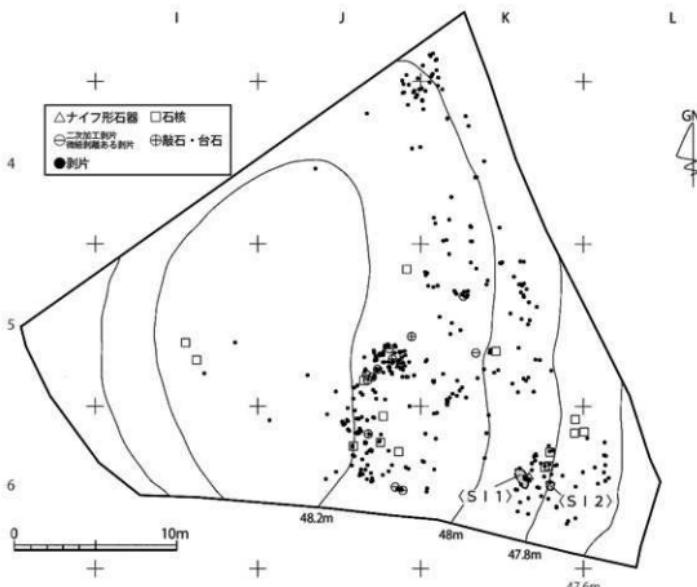
礫群2基はどちらもK-6グリッド南東側で検出した。検出面は、1号礫群(S I 1)はX層上部で、2号礫群(S I 2)はX層中部であった。

1号礫群(S I 1)は、礫が6個使用されており総重量は4.75kgである。いずれも砂岩で、赤化は弱かった。流されて散漫な密度で礫群とは認定しがたい面もあるが、中央に巨礫があった。炭化物や掘込は確認できなかった。

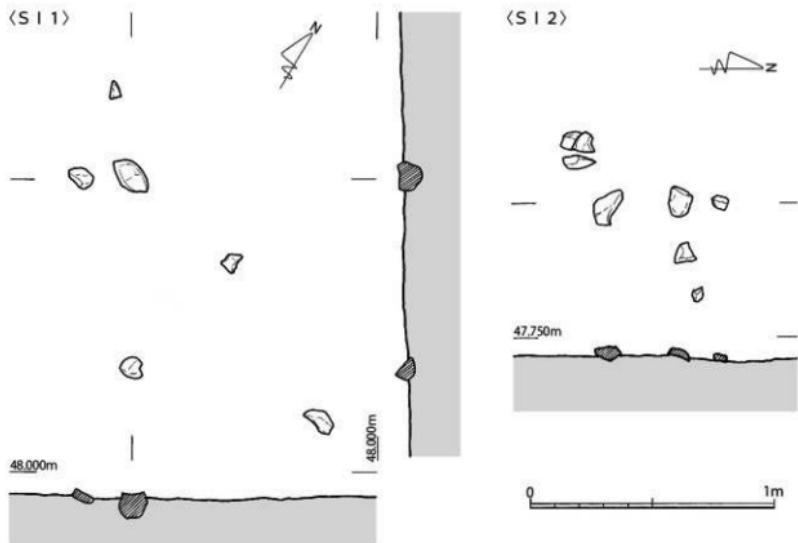
2号礫群(S I 2)は、礫が8個使用されており総重量は2.05kgである。中央の巨礫は花崗斑岩で、その他は砂岩の角礫であった。赤化は弱く、炭化物や掘込は確認できなかった。

### (2) 出土石器(第19~38図-14~28)

第II期の石器は、調査区北部のK-4グリッド付近、K-6グリッド付近、K-6グリッド南東側の3つの集中区から主に出土し、合計355点を確認した。その内訳は、ナイフ形石器2点、二次加工剥片1点、微細剥離ある剥片10点、剥片・碎片323点、抉入石器1点、石核16点、敲石1点、台石1点である。流紋



第17図 第II期検出状況図(S=1/300)



第18図 第II期砾群実測図 (S=1/20)

岩(特にR II類)を中心としている。

14・15はナイフ形石器である。どちらも二側縁加工で、14は縦長な剥片、15は横長な剥片を素材としている。R III類製である。

16は、二次加工剥片で作業面調整があり、縦長な剥片を素材としたR II類製である。

17～22は剥片である。17・18は縦長な剥片、19は横長な剥片でR I類製である。20は不定形剥片でR II類製である。21・22は、チャート製の不定形剥片で、作業面調整がある。

23～26は石核である。23・24どちらも縦長や不定形剥片を作出している。R II類製である。25・26はチャート製で、連続して剥片を作出している。

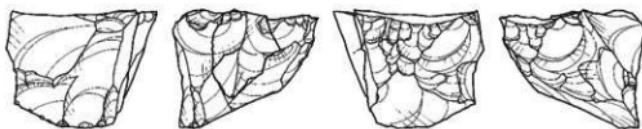
27は砂岩製の敲石、28は凝灰岩製の台石である。

	流紋岩				ホルンフェルス	チャート	砂岩	凝灰岩	花崗岩	黒曜石	合計
	I類	II類	III類	IV類							
ナイフ形石器	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	2
二次加工剥片	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
微細剥離ある剥片	1	9	0	0	0	0	0	0	0	0	10
剥片・碎片	98	159	47	5	5	6	3	0	0	0	323
抉入石器	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
石核	2	11	0	0	1	2	0	0	0	0	16
敲石	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1
台石	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1
合計	101	181	49	5	6	8	4	1	0	0	355

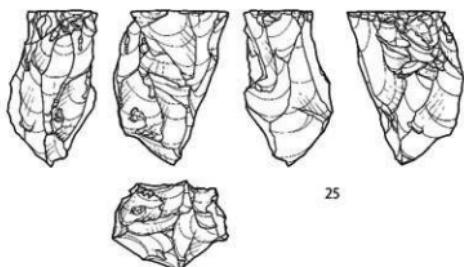
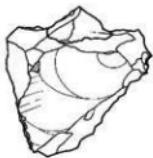
第3表 第II期出土石器石材組成表



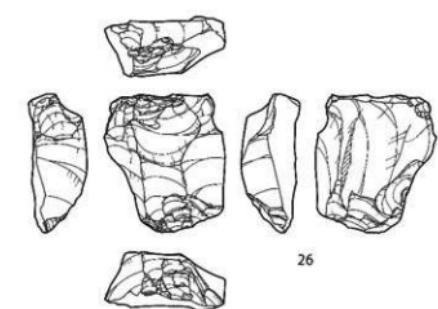
第19圖 第Ⅱ期石器實測圖1 (S=2/3)



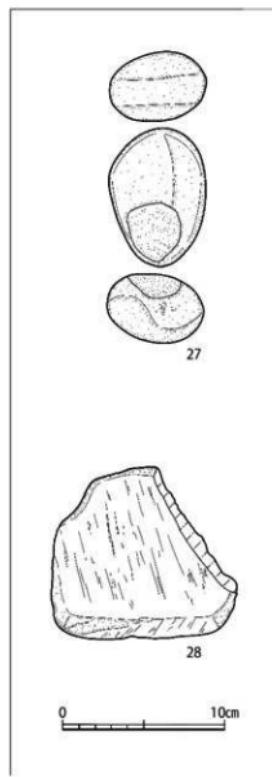
24



25



26

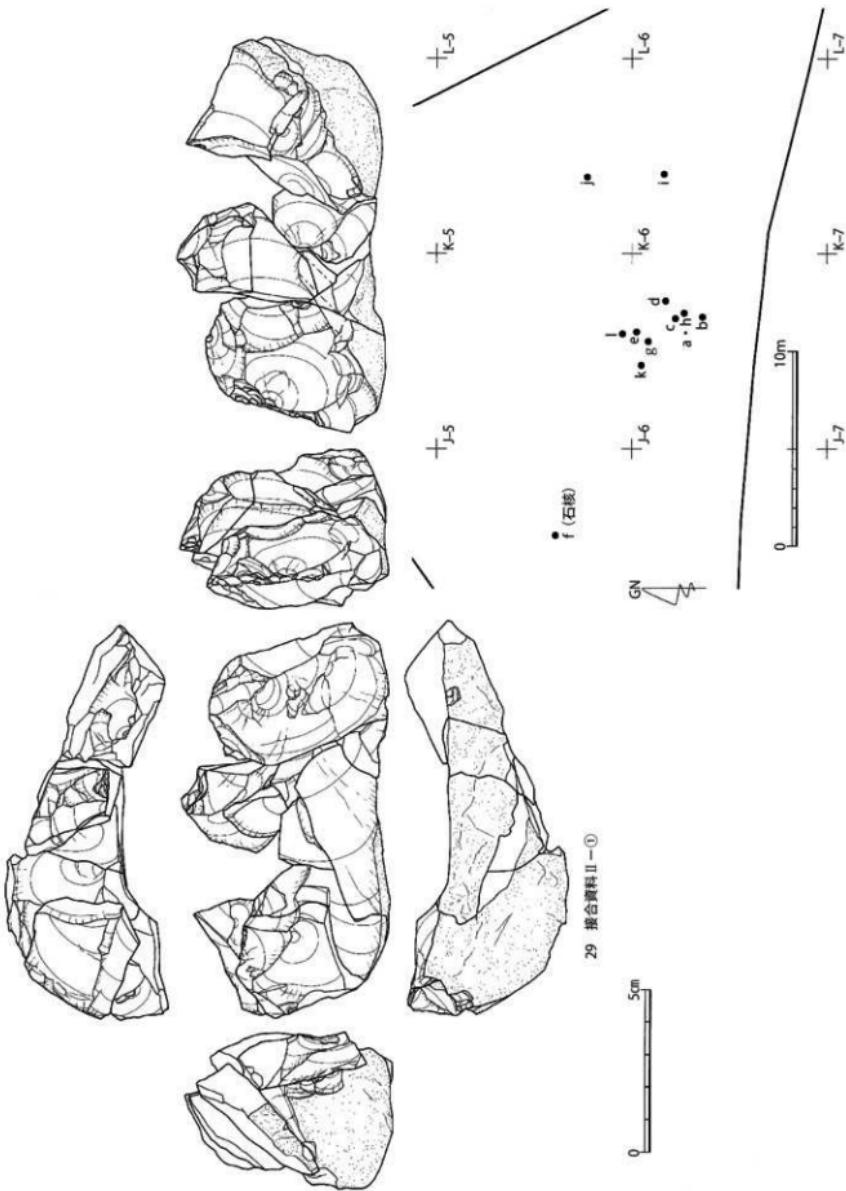


27

28

0 10cm

第20図 第II期石器実測図2 (S=2/3)、(S=1/3)



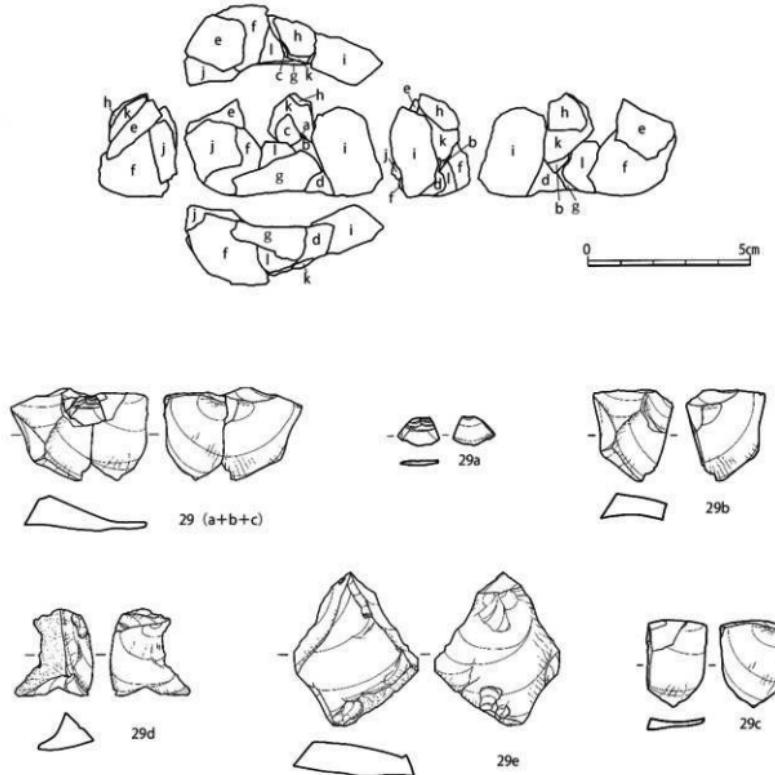
第21圖 第二期石器実測図3 ( $S=2/3$ ) 接合資料II-①分布図 ( $S=1/250$ )

(3) 接合資料 (第21図～38図)

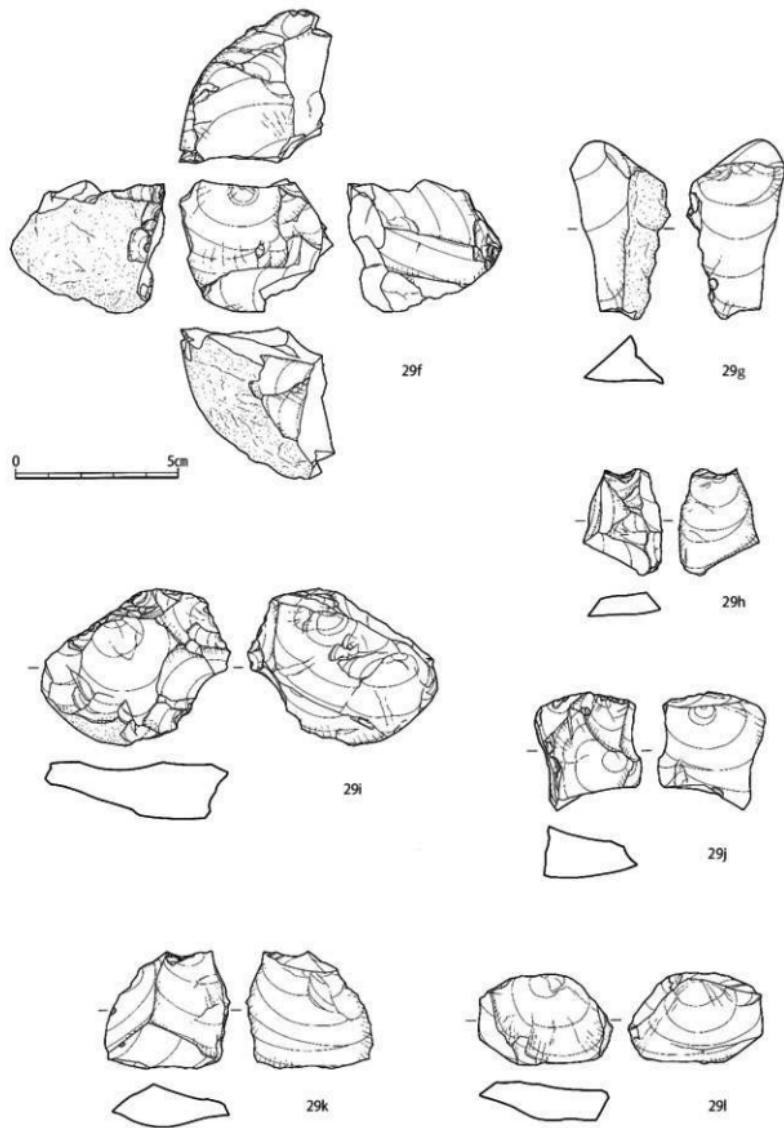
接合資料は32例確認された。そのうち11例の図化を行った。

[接合資料29] (第21・22・23図)

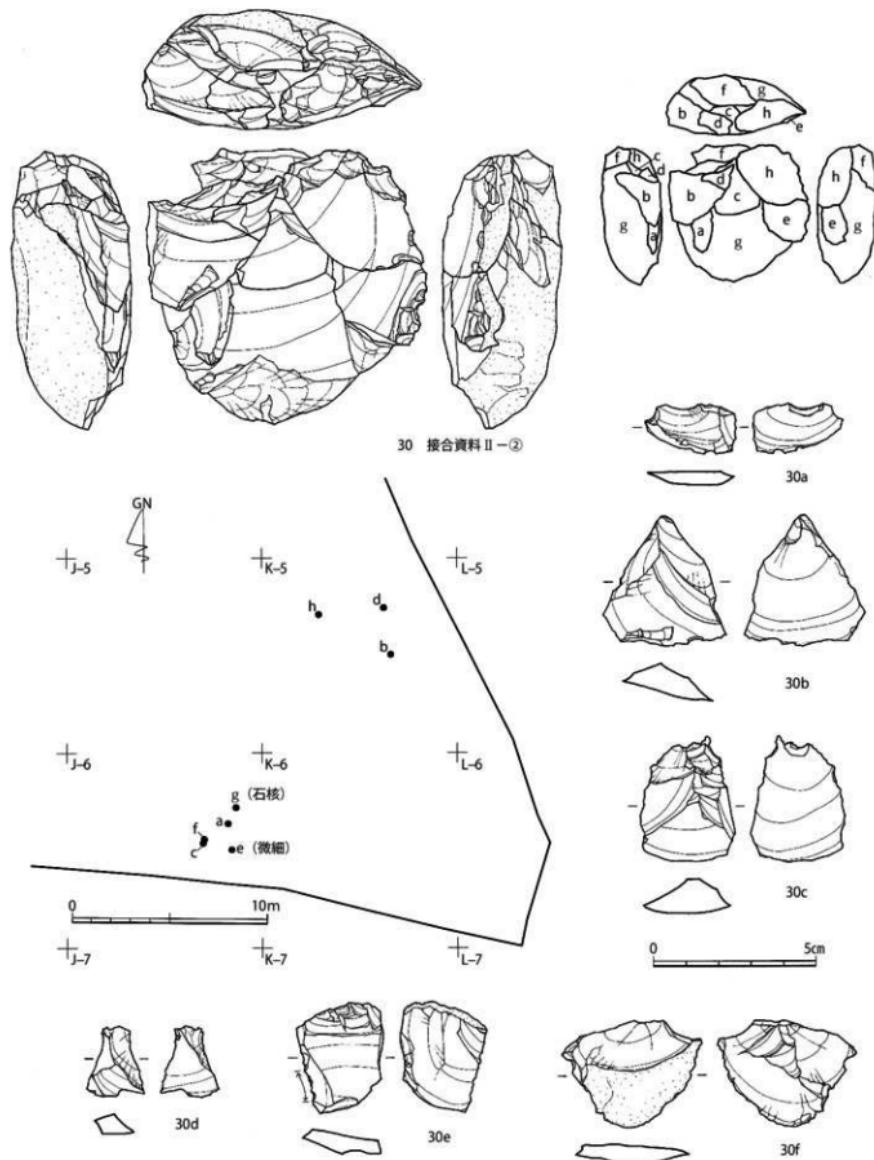
29接合資料II-①は、R I 類製で剥片11点、石核1点の合計12点が接合している。いずれも調査区南東部、J-6 グリッド付近に集中して出土した。素材は長径約12cm、短径約6cm程度の楕円礫であったと考えられる。礫面部はほとんど全て残存しており接合するが、素材内部は空間となっている。正面右側の29iなど礫端部を打ち欠き打面を形成し、29a, 29b, 29c, 29d, 29h, 29kを縱方向に剥離している。29lには作業面調整が見られる。また29fを中心に、29g, 29l, 29e, 29jを剥離している。どれも分厚い剥片である。29jには作業面調整が見られる。29fは、石核である。石核の29fや作業面調整の見られる29i, 29jは、他の9点が出土した集中箇所から5mほど離れた場所で出土している。

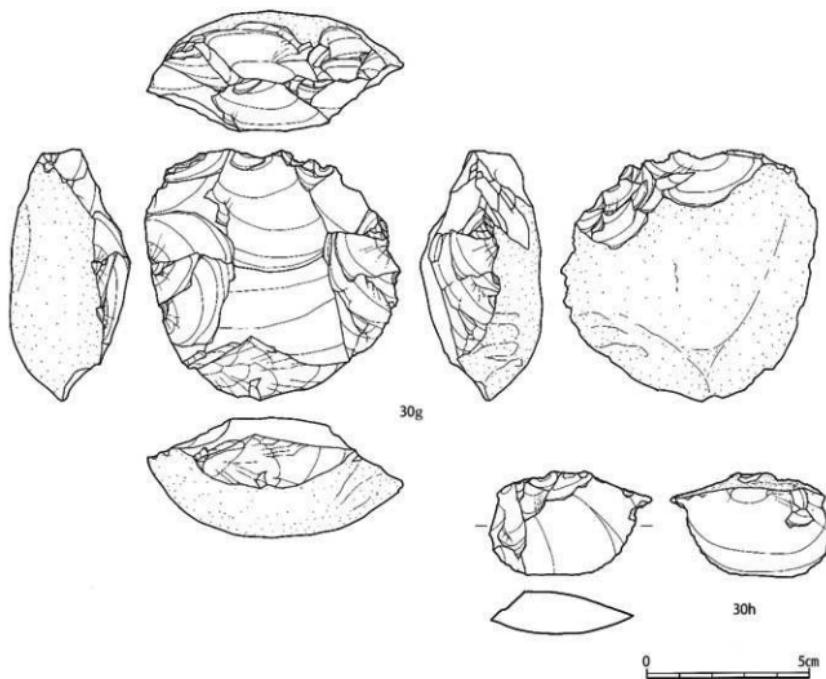


第22図 第II期石器実測図4 (S=2/3)



第23圖 第II期石器實測圖 5 (S=2/3)





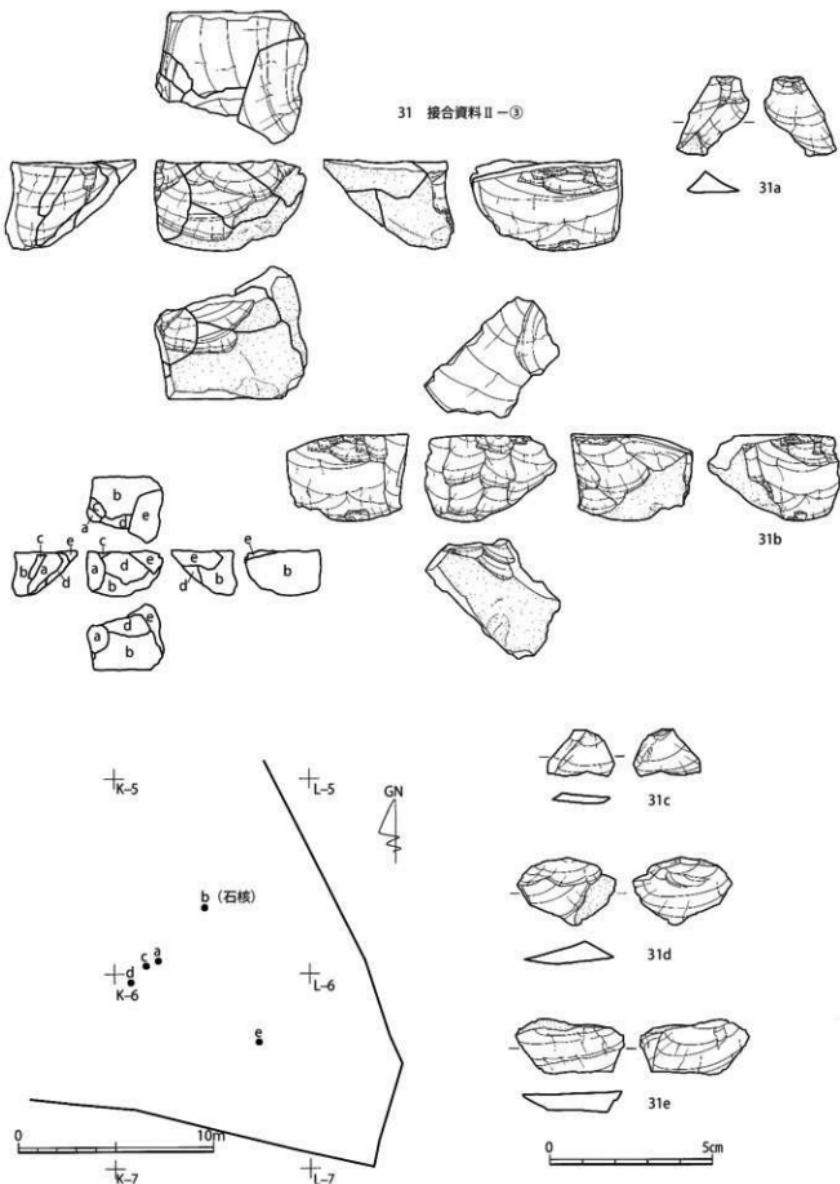
第25図 第II期石器実測図7 (S=2/3)

[接合資料30] (第24・25図)

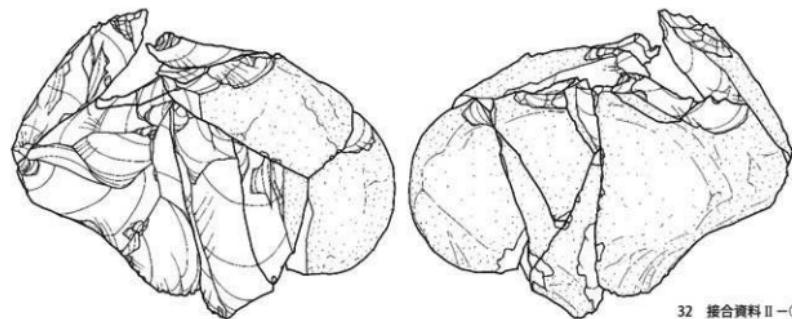
30接合資料II-②は、R I類製で微細剥離ある剥片1点、剥片6点、石核1点の合計8点が接合している。調査区南東部J-6グリッドで5点とK-6グリッドで3点出土した。素材は、円盤から分割した径約8cm、厚さ約4cm程度の円盤状の大型剥片である。これを正面に端部から剥離を行った後、打面を転移しつつ幅広の剥片を作出している。30c、30e、30g、30hには作業面調整が見られる。30eは、左側縁部に微細剥離が見られる剥片である。30gは石核で裏面に自然面が残っている。30b、30d、30hは、他の5点が出土したまとまりの箇所から約10m離れて出土している。

[接合資料31] (第26図)

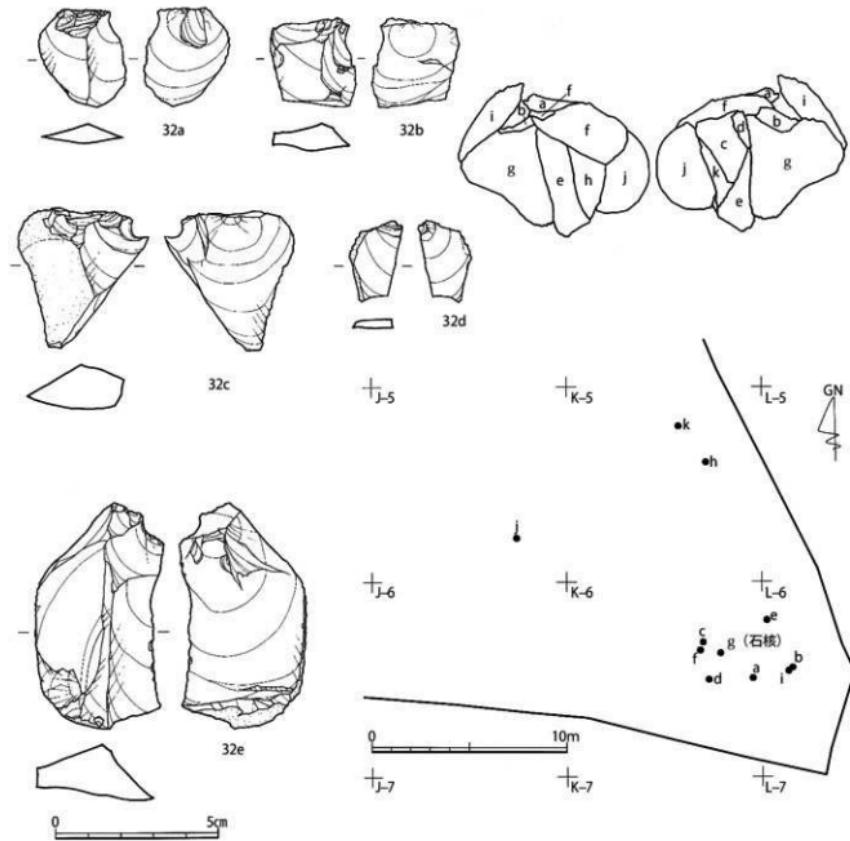
31接合資料II-③は、R II類製で剥片4点、石核1点の合計5点が接合している。調査区南東部、K-5グリッドで1点、K-6グリッドで4点出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、拳大の円盤だと考えられる。31eを正面右の自然面より剥離した後、打面を直交させ、正面上部から縦方向に31a、31c、31dと剥片を作出している。31aは作業面調整の見られる剥片で、他の4点が出土したまとまりの箇所から約6m離れて出土している。31bは石核である。



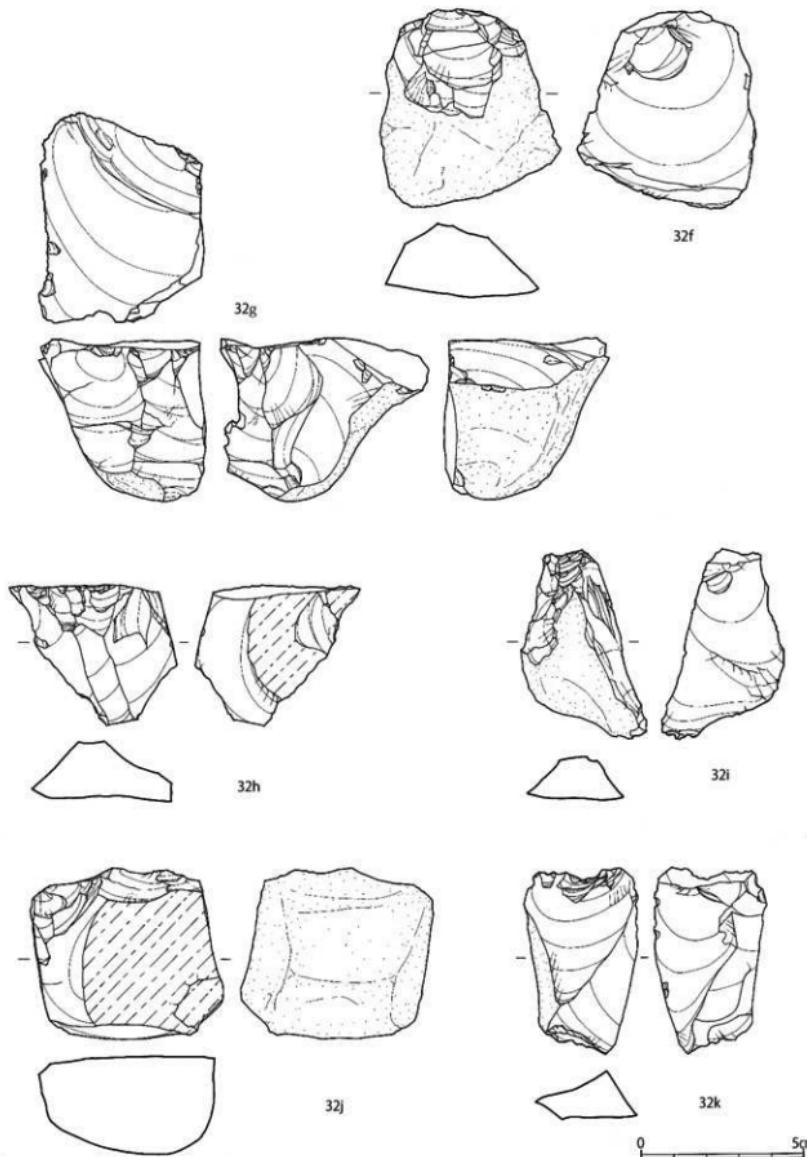
第26図 第II期石器実測図8 (S=2/3) 接合資料II-③分布図 (S=1/250)



32 接合資料 II -④



第27図 第II期石器実測図9 (S=2/3) 接合資料II -④分布図 (S=1/250)



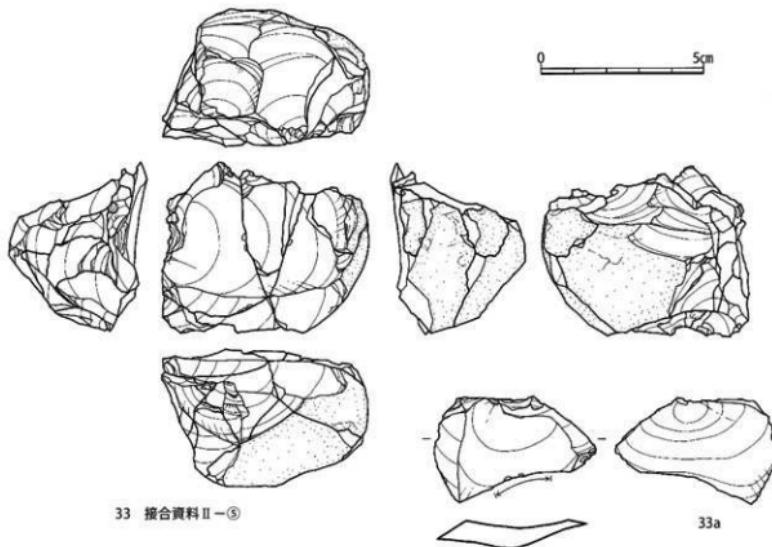
第28図 第II期石器実測図10 (S=2/3)

[接合資料32] (第27・28図)

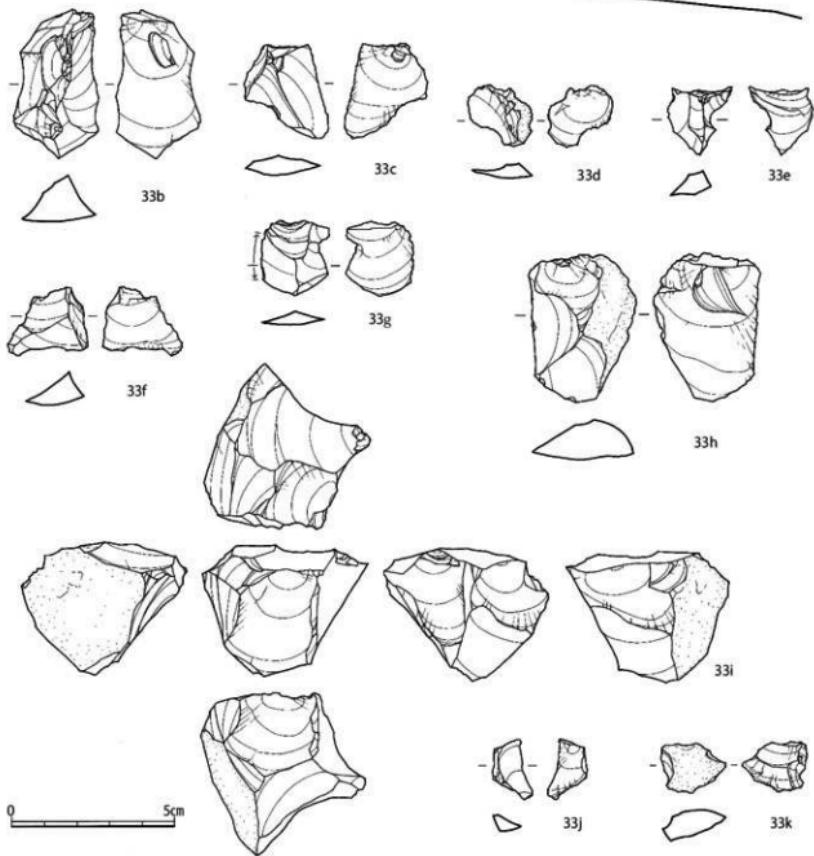
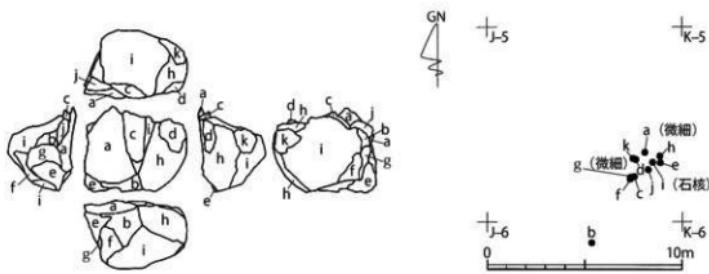
32接合資料II-④は、R II類製で剥片10点、石核1点の合計11点が接合している。調査区南東部K-5グリッドで1点、J-5グリッドで2点、L-6グリッド付近で8点出土した。素材は、径約12cmのやや偏平な亜円礫である。32a、32f、32iを剥離し打面を形成している。32c、32d、32e、32h、32kは、正面上面より主に縦方向の剥離を行っており、32d以外はどれも分厚い剥片で、ほとんどに作業面調整が見られる。32jは、節理割れと思われる。11点中8点はL-6グリッド付近に集中するが、残り32h、32j、32kは、そこから約10m離れた箇所で出土した。32gは自然面の残る石核である。素材から剥ぎ落とす過程で出た大きな剥片でもあるが、32bのような小剥片を剥離していることから石核とした。

[接合資料33] (第29・30図)

33接合資料II-⑤は、R II類製で微細剥離ある剥片2点、剥片8点、石核1点の合計11点が接合している。調査区南東部、J-5グリッドで出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、拳大の円礫だと考えられる。正面左側縁部を大きく打ち欠き、そこで形成された分割面を打面とし、33a、33e、33f、33g、33jを作出している。さらに正面上面に打面を転移し、残りの剥片を作出している。33a、33b、33hには作業面調整が見られる。33a、33gは微細剥離の見られる剥片である。33iは、自然面の残る石核である。11点中10点は、J-5グリッドに集中して出土するが、33bの1点だけは、そこから約5m離れた箇所で出土した。

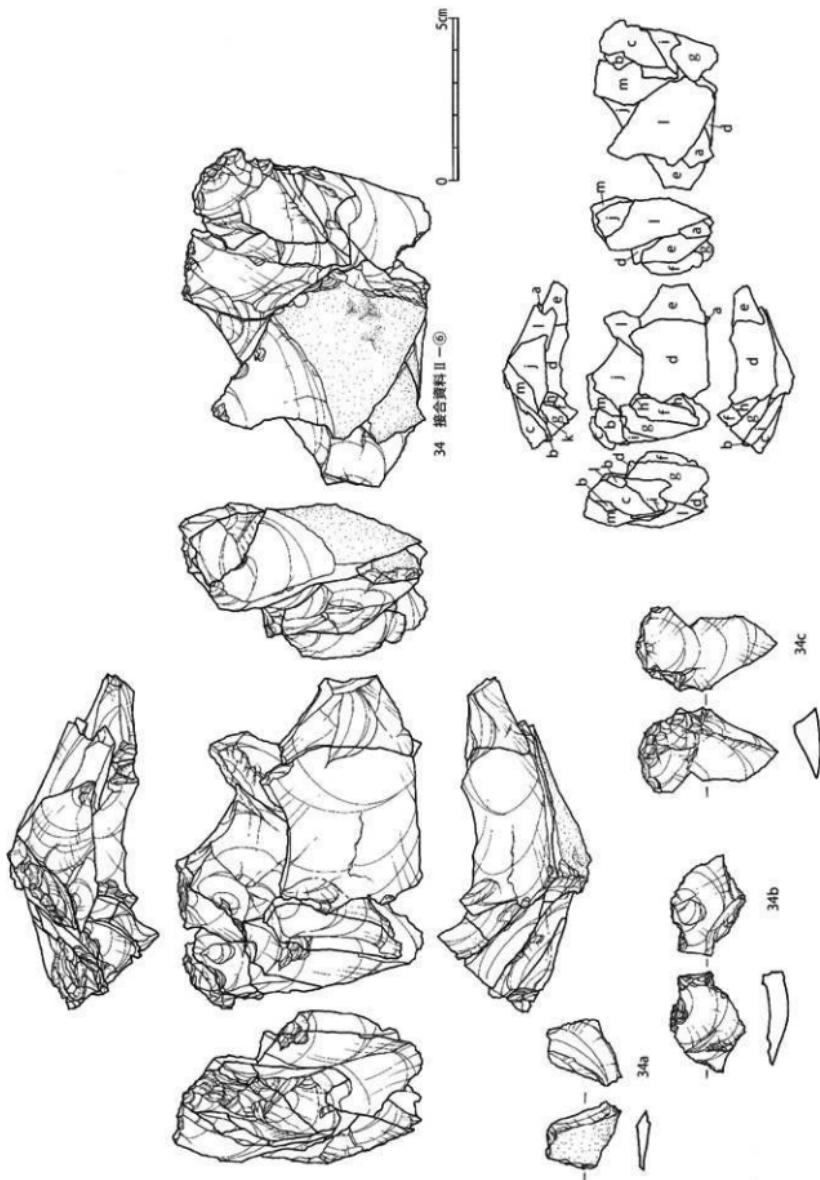


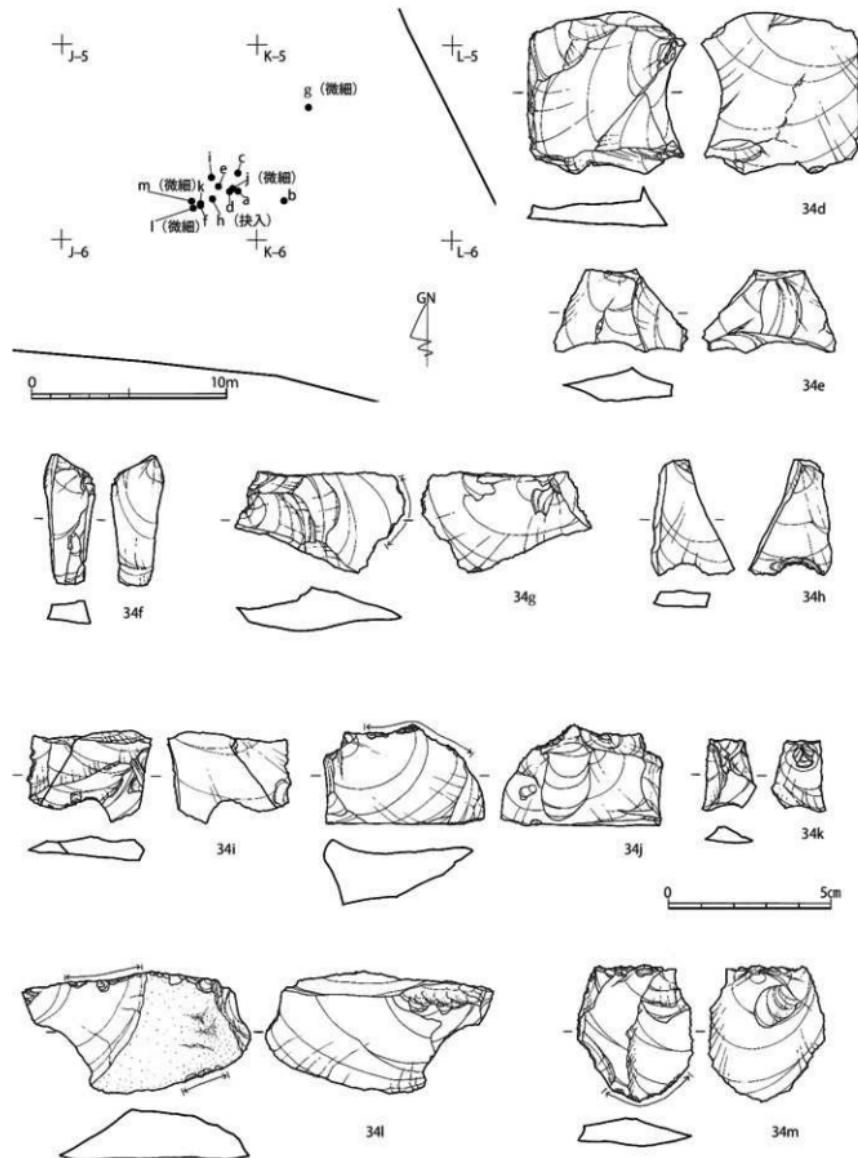
第29図 第II期石器実測図11 (S=2/3)



第30図 第II期石器実測図12 (S=2/3) 接合資料II - ⑤分布図 (S=1/250)

第31圖 第II期石器実測図13 (S=2/3)





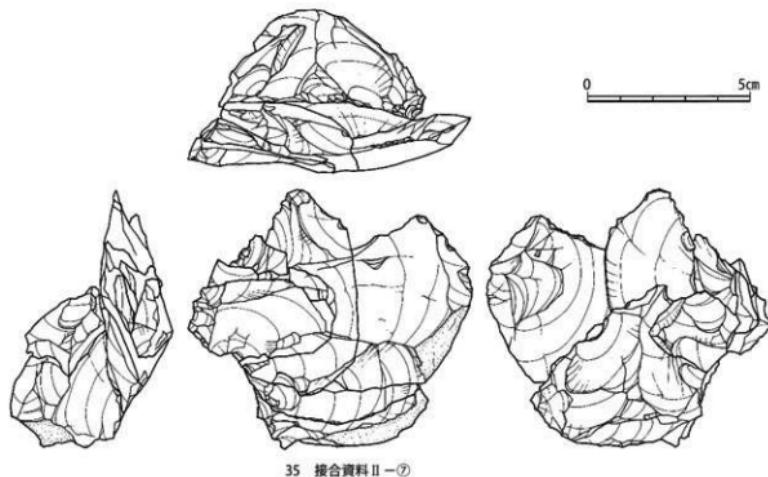
第32図 第Ⅱ期石器実測図14 (S=2/3) 接合資料II-⑥分布図 (S=1/250)

[接合資料34] (第31・32図)

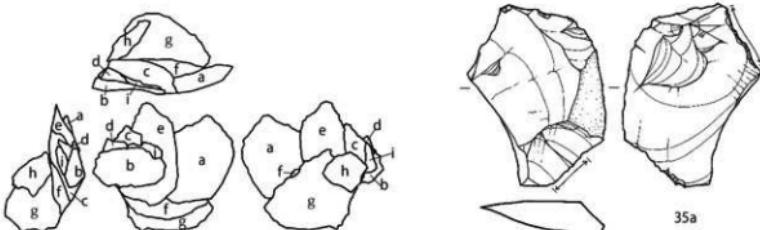
34接合資料II-⑥は、R II類製で抉入石器1点、微細剥離ある剥片4点、剥片8点の合計13点が接合している。調査区南部、J-5、K-5グリッドで出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、亜円礫もしくは角礫の端部を用いていると考えられる。正面右側縁からの打撃で34a、34d、34e、34lを剥離し、打面を正面上部に転移させながら残りの8点の剥片を作出している。34hは端部に二次加工の施された抉入石器である。34gは右側縁に、34jは上部に、34lは上・下部に、34mは下部に微細剥離の見られる剥片である。

[接合資料35] (第33・34図)

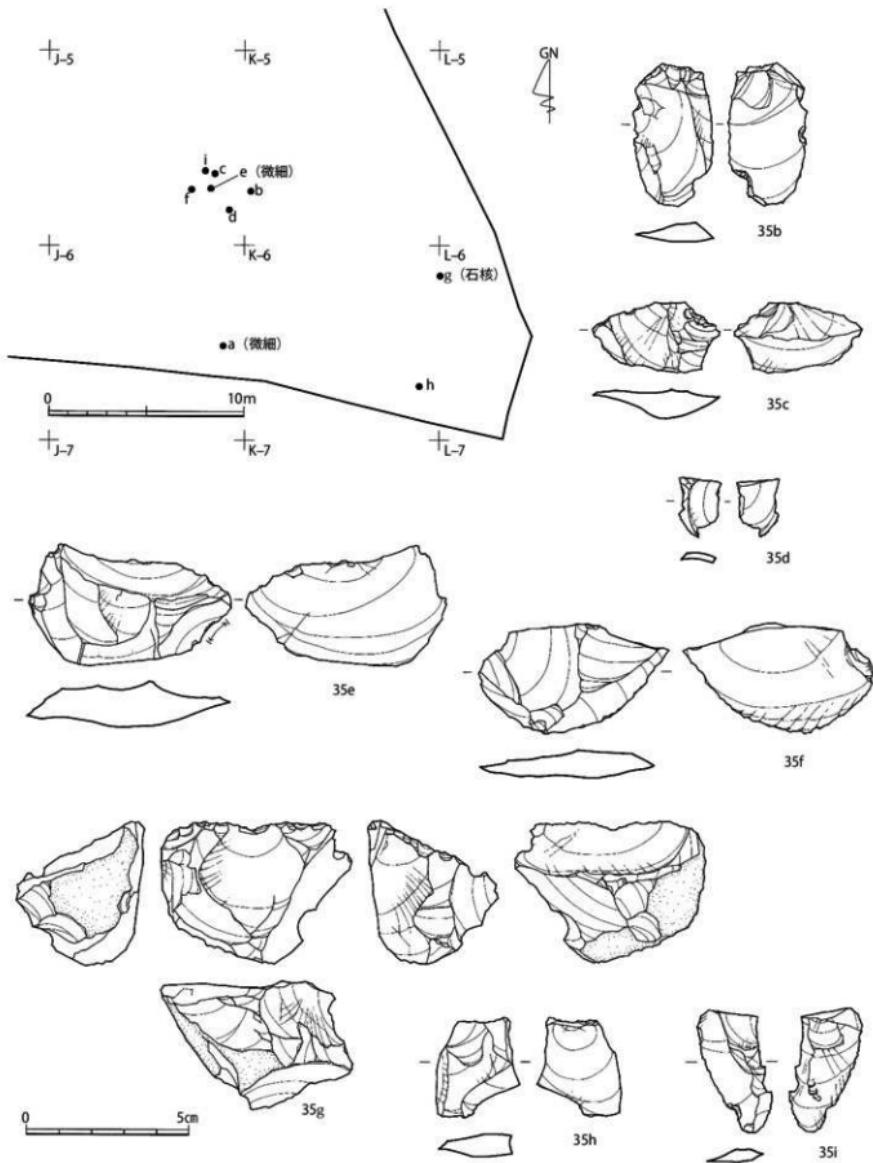
35接合資料II-⑦は、R II類製で微細剥離ある剥片2点、剥片6点、石核1点の合計9点が接合している。調査区南東部、J-5、K-6グリッドで出土した。素材は碎片で、全体形が不明であるが、径10cm以上の円礫だと考えられる。正面左側を打面に35bなどの剥離を行い、その後打面を直交させ正面上部から縱方向に35e、35aの剥離を行っている。さらに打面を直交させ35h、35fを剥離している。35aは右側縁下部に、35eは右側縁に微細剥離の見られる剥片である。35gは、35fなどの剥片を作出した後の自然面の残る石核である。



35 接合資料II-⑦

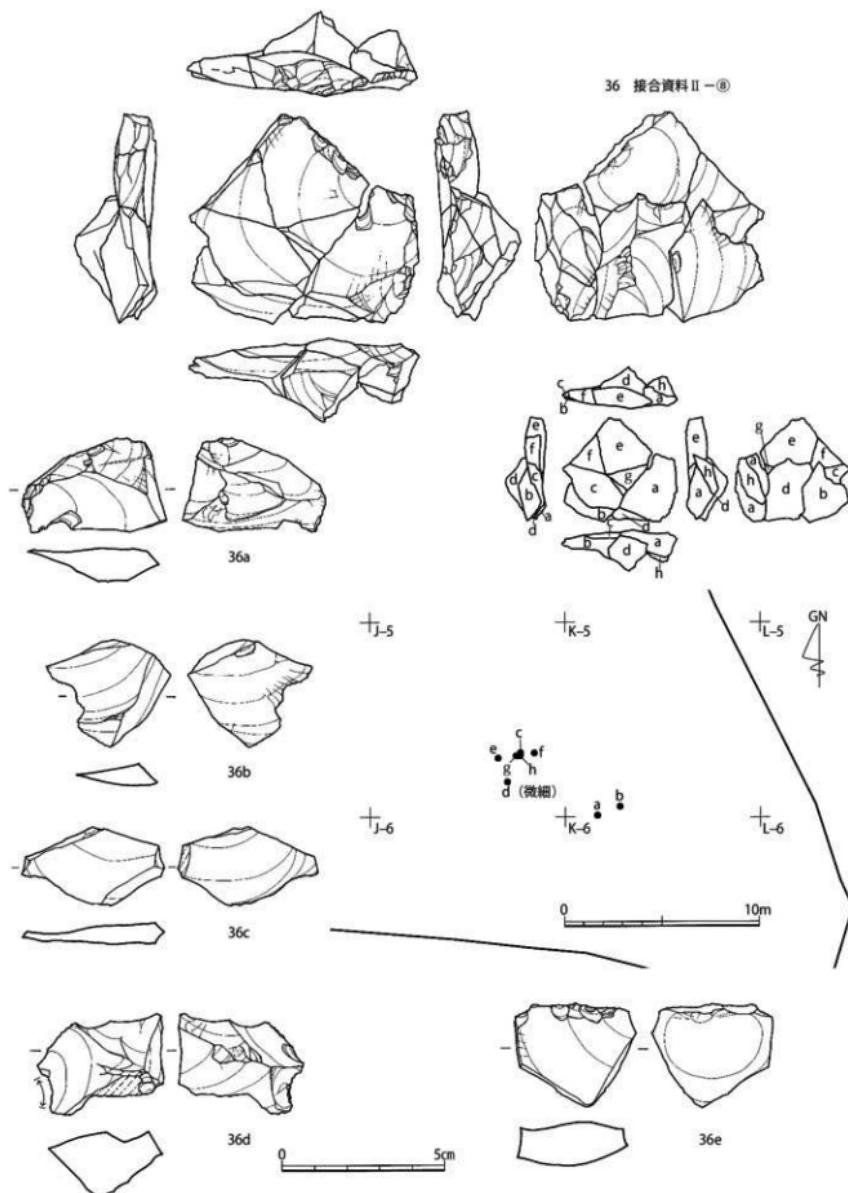


第33図 第II期石器実測図15 (S=2/3)



第34図 第II期石器実測図16 ( $S=2/3$ ) 接合資料II-⑦分布図 ( $S=1/250$ )

36 接合資料 II -⑧



第35図 第II期石器実測図17 ( $S=2/3$ ) 接合資料II -⑧分布図 ( $S=1/250$ )

[接合資料36]

(第35・36図)

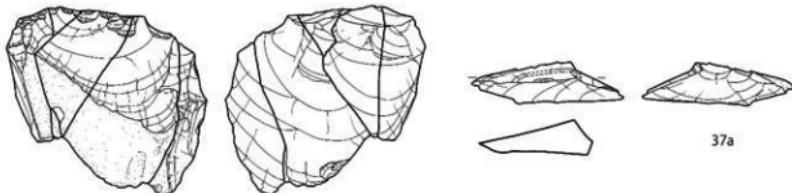
36接合資料 II -

⑧は、R II 類製で微細剥離ある剥片 1  
点、剥片 7 点の合計  
8 点が接合してい

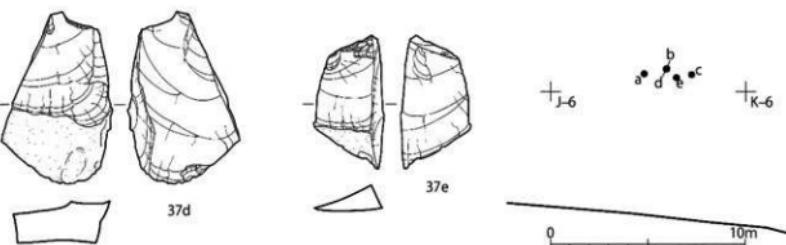
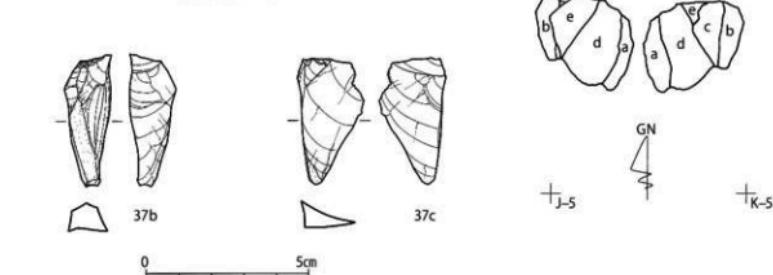
る。調査区南東部、J-5、K-5 グリッドで出土した。正面右上部を打面にし、36a、36e、36h の剥片を作出している。36c+36e+36f+36g はそれぞれ 1 枚の剥片であり、剥片剥離の衝撃で節理により偶発的に割れたものである。36d は、左側縁下部に微細剥離が見られる。

[接合資料37] (第36図)

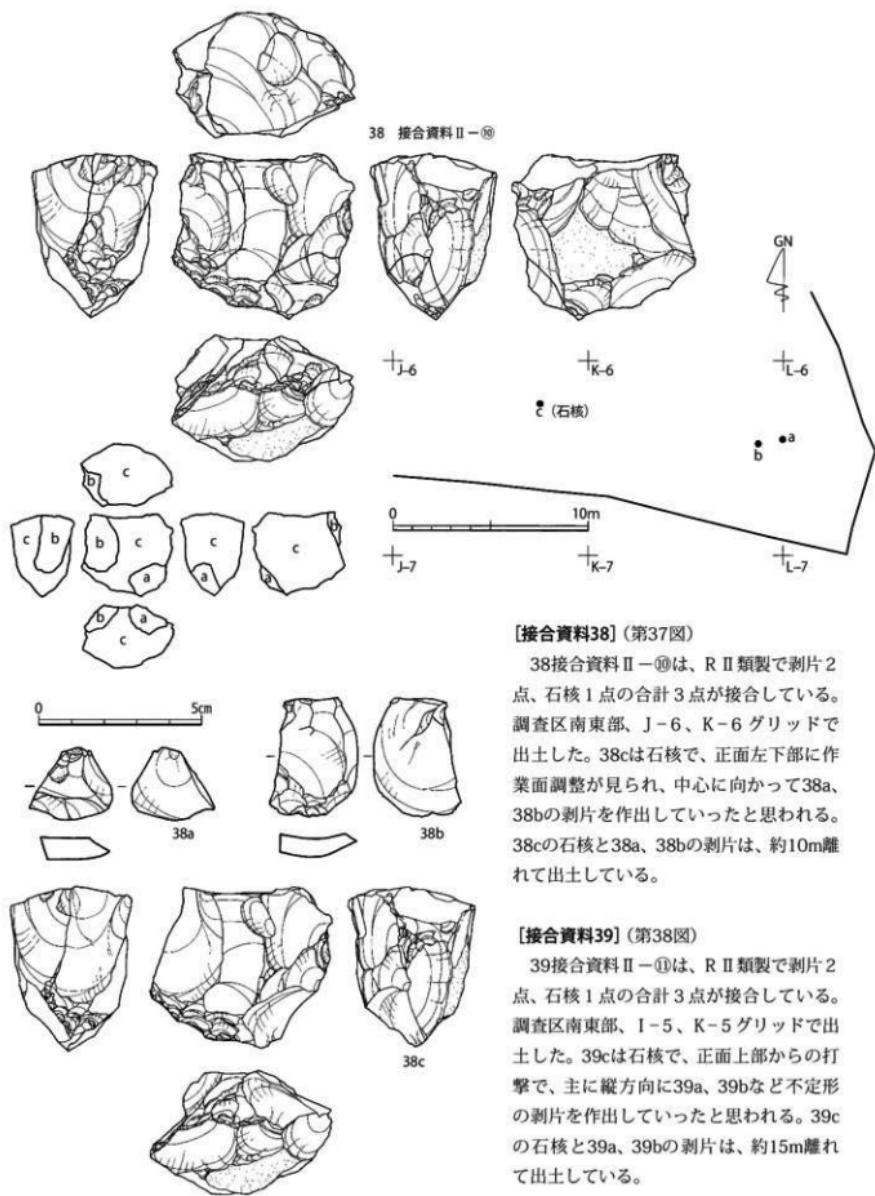
37接合資料 II -⑨は、R II 類製で剥片 5 点が接合している。調査区南東部、J-5 グリッドで出土した。正面右上部を打ち欠き、そこを打面として縦方向に剥離を行っている。37b、37c、37e には作業面調整が見られる。



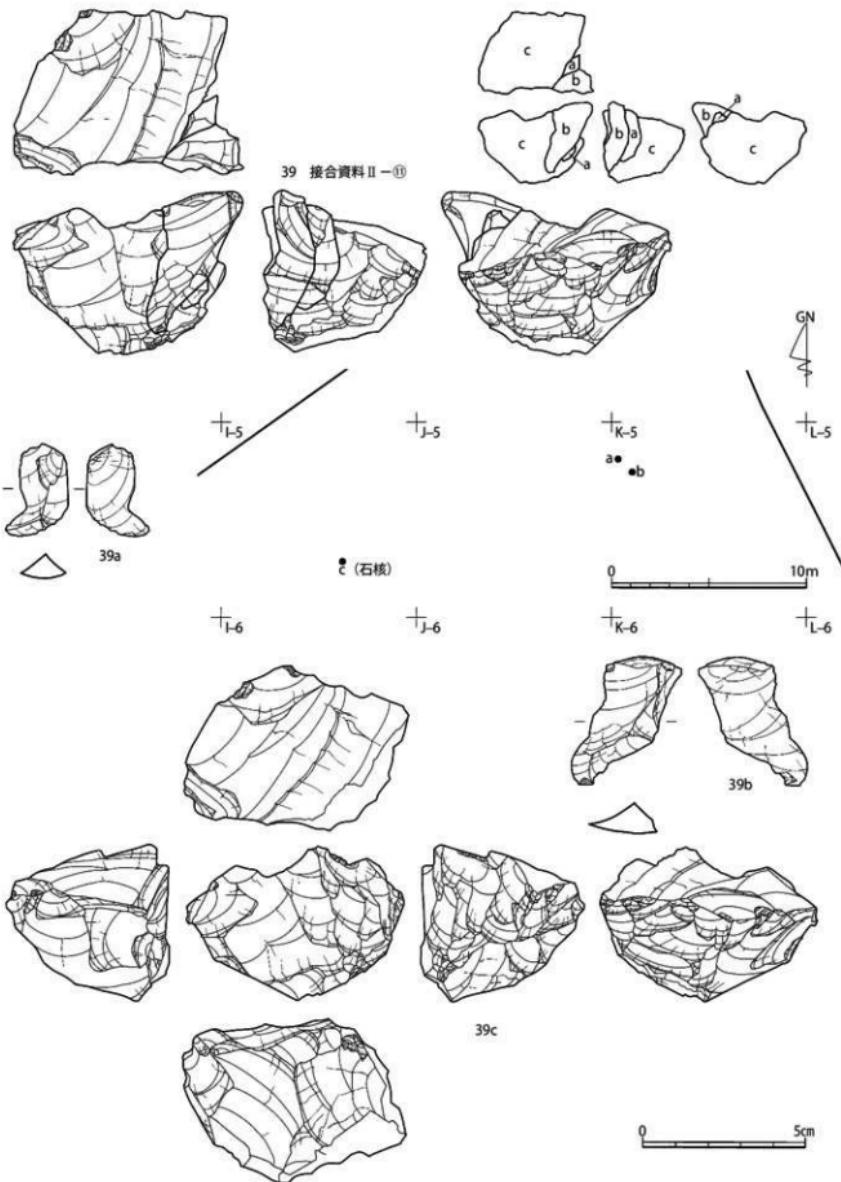
36 接合資料 II -⑨



第36図 第II期石器実測図18 (S=2/3) 接合資料 II -⑨分布図 (S=1/250)



第37図 第Ⅱ期石器実測図19 ( $S=2/3$ ) 接合資料II-⑩分布図 ( $S=1/250$ )



第38図 第II期石器実測図20 ( $S=2/3$ ) 接合資料 II - ⑪ 分布図 ( $S=1/250$ )

### 第3節 第Ⅲ期（VII～VIII層）の調査（第39図～74図）

第Ⅲ期は、VII層下部～VIII層の比較的層厚な箇所に遺構・遺物が分布している。VII層とVIII層は色調の違う層であり、遺物の出土レベルにも幅がある。しかし以下の3点から、VII層とVIII層を同一時期のものとして一括することとした。

- ・大部分の接合資料でVII層とVIII層が接合していること。
- ・VII層とVIII層の遺物分布図（第39図）から、遺物集中箇所が重複していること。
- ・石材、器種構成に類似点が多いこと。

しかし、個々の集中箇所ごとに、石器の形態や剥離技術等の詳細な分析から、VII層とVIII層を違う時期に分離できる可能性は否めない。

遺構は、礫群4基（第40図・41図）を検出した。調査区北側J-4グリッド、東側K-6グリッド周辺部分、西側I-5グリッドとI-6グリッドの間付近の3箇所に遺物の集中区（第41図）がある。

#### （1）礫群（第40・41図）

第Ⅲ期から確認できた礫群は4基である。いずれの礫群にも、炭化物や掘込は確認されなかった。検出面は、1号礫群（S I 1）と2号礫群（S I 2）はVIII層上部、3号礫群（S I 3）と4号礫群（S I 4）はVIII層中部であった。

1号礫群（S I 1）はI-5グリッドで検出した。礫が7個使用されており総重量は1.55kgである。砂岩が4個、チャートが3個で、いずれも赤化している角礫が主体であった。

2号礫群（S I 2）はK-6グリッドで検出した。礫が9個使用されており総重量は2.45kgである。砂岩が5個、流紋岩が3個、凝灰岩が1個で、砂岩と流紋岩は赤化しており、凝灰岩は赤化していなかった。角礫主体で、礫群中に石核（141g）が1点出土した。

3号礫群（S I 3）はI-5グリッドで検出した。礫が18個使用されており総重量は2.45kgである。砂岩が5個、流紋岩が9個、凝灰岩が4個で、いずれも赤化している円礫が主体であった。

4号礫群（S I 4）はJ-5グリッドで検出した。礫が67個使用されており、総重量は23.90kgである。砂岩が28個、ホルンフェルス9個、流紋岩28個、礫岩1個、凝灰岩1個で、いずれも赤化が激しい円礫主体で、被熱による破碎が大変顯著であった。

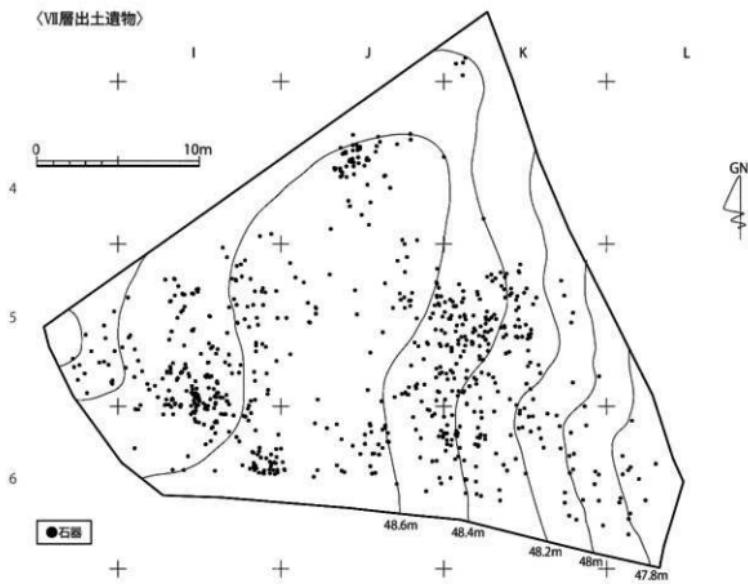
遺構番号	グリッド	検出面	長径(cm)	短径(cm)	掘込	石 材	礫数(個)	重量(kg)	礫の密度	炭化物	備 考
S I 1	J-5	8層上部	93	51	無	砂岩57%／チャート43%	7	1.55	疎	無	全て赤化礫。角礫が主体。
S I 2	K-6	8層上部	94	51	無	砂岩56%／流紋岩33%／凝灰岩11%	9	2.45	疎	無	凝灰岩以外は赤化礫。角礫主体で構成。石核（141g）が1点出土。
S I 3	I-5	8層中部	114	69	無	砂岩28%／流紋岩50%／凝灰岩22%	18	2.45	疎	無	全て赤化礫。円礫が主体。
S I 4	J-5	8層中部	138	108	無	砂岩42%／ホルンフェルス14%／流紋岩42%／礫岩1%／凝灰岩1%	67	23.90	やや密	無	全て赤化が激しい円礫主体で、被熱による破碎が大変顯著。

第4表 第Ⅲ期礫群計測表

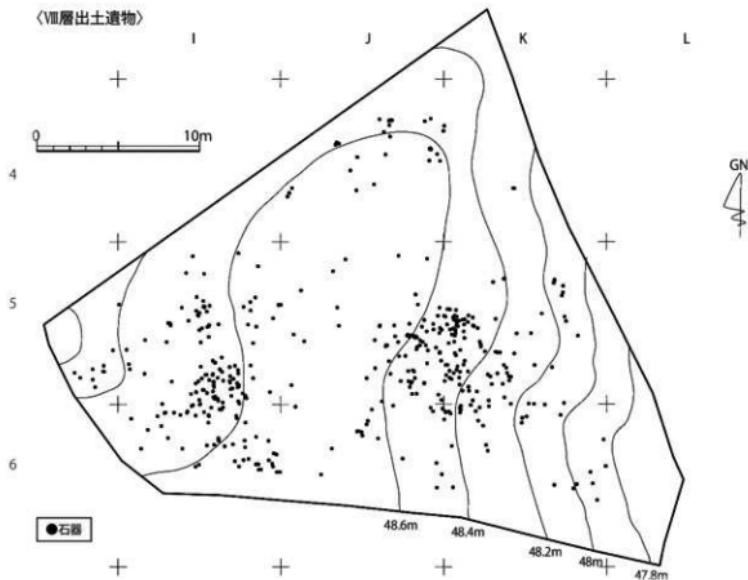
#### （2）出土石器（第42～56図-40～135）

第Ⅲ期の石器は、調査区北側J-4グリッド、東側K-6グリッド周辺部分、西側I-5グリッドとI-6グリッドの間付近の3つの集中区から主に出土し、合計1056点を確認した。その内訳は、ナイフ形石

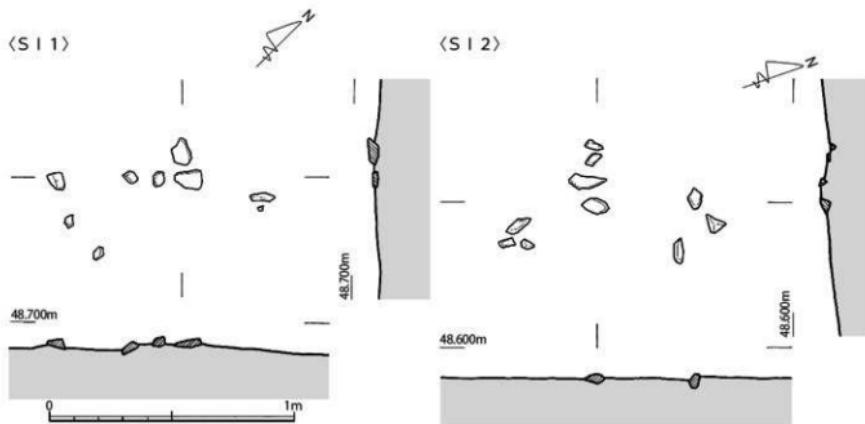
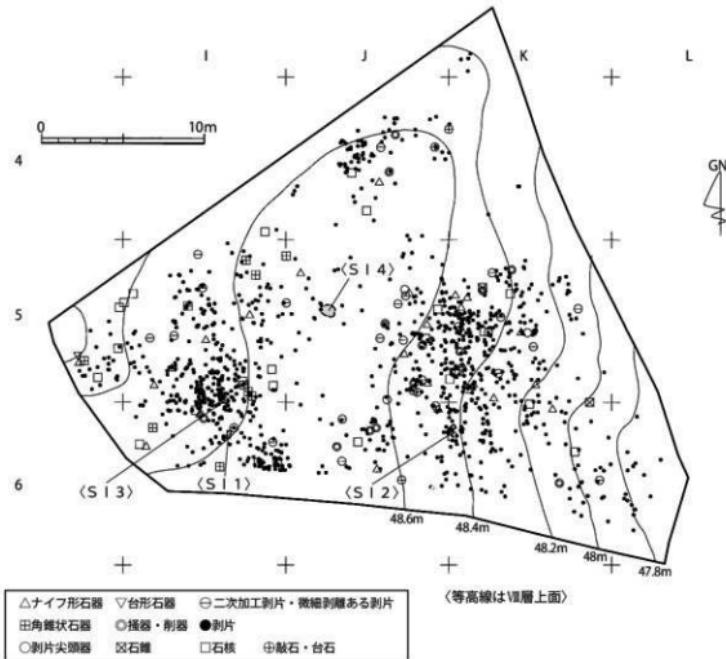
〈VII層出土遺物〉



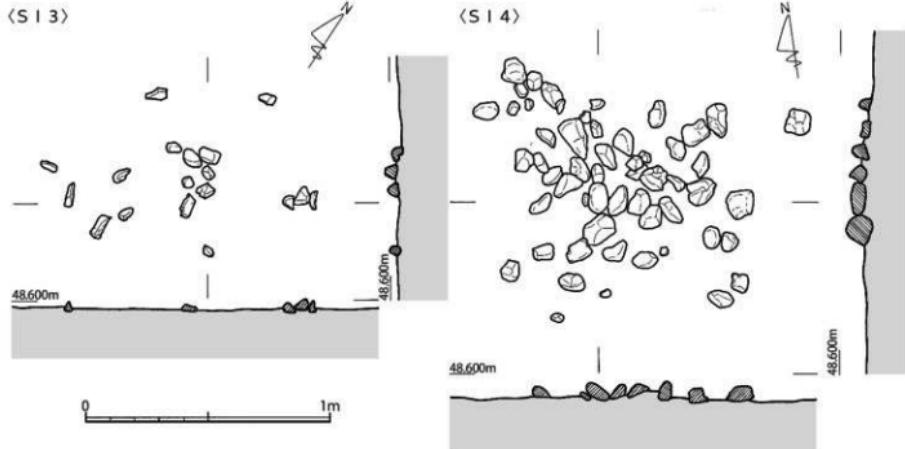
〈VIII層出土遺物〉



第39図 第Ⅲ期層準別遺物分布図 ( $S=1/300$ ) 〈等高線はVII層上面〉



第40図 第III期検出状況図 (S=1/300) 第III期砾群実測図1 (S=1/20)



第41図 第III期砾群実測図2 (S=1/20)

器24点、角錐状石器9点、剥片尖頭器6点、台形石器1点、削器・搔器13点、石錐2点、二次加工剥片8点、微細剥離ある剥片11点、剥片・碎片952点、石核27点、磨石1点、敲石1点、台石1点である。石材は流紋岩(特にR II類)を中心としている。

40～63はナイフ形石器である。40～43は縦長な剥片を素材とした一側縁及び基部に加工を施している。いずれもR II類製である。44～46は横長な剥片を素材とした一側縁加工で、46はR III類製、その他のR II類製である。47～52は縦長な剥片を素材とした切出し形ナイフ形石器で、47～50は一側縁、51・52は二側縁の加工を施している。47～49がR I類製、50～52はR II類製である。53は両側縁に加工を施し刃部を斜めに作出している。R I類製である。54・55はノの字形の斜軸剥片を素材としたナイフ形石器で、R II類製である。56～63は二側縁に加工を施している。56～58、60～62は細身な形をしている。59は、切出し形である。63は左側縁から基部にかけて見られる調整は抉りの入る急斜度の調整である。56はh o製、57～60はR I類製、61～63はR II類製である。

64～72は角錐状石器である。64・66は横長な剥片、65・67～72は縦長な剥片を素材としている。65、66、67、69、72は表面に加工を施していない面が見られる。66～68、70～72は稜からの加工が見られる。70は表面左右両側縁及び稜上から粗い加工を施した後、細かな調整を加えており、両面ともに加工が施されている。64～67はR I類製、68～71はR II類製、72はh o製である。

73～78は剥片尖頭器である。いずれも縦長な剥片を素材としている。73は基部のみに抉入状の加工が施されている。74は中央の稜に微細な加工が見られる。76・77は、一側縁の基部からその周辺部までと、もう一側縁の全体に加工が施されている。73はR I類製、74～76はR II類製、77はR III類製、78はR IV類製である。

79は台形石器である。幅広な剥片を素材として、両側縁を八の字状の曲線に加工を施している。R I類製である。

80・81は搔器で、どちらもR I類製である。80は縦長な剥片を素材として左側縁下部に加工が施されている。81は幅広な剥片を素材として、表面に自然面を残し、背面側からの連続した加工を施した大型の円形搔器である。

82～92は削器である。83・89は幅広な剥片、82・84～88、90～92は、縦長な剥片を素材としている。89は主要剥離面から連続的な加工を施し、刃部を形成している。86は剥片尖頭器素材に近似した縦形削器で、左側縁に加工が施されている。また刃部とは別に左側縁に微細な剥離が見られる。88は表・裏両面側からの加工が施されており、ナイフ形石器からの転用も考えられる。82～86はR I類製、87・88はR II類製、89はR III類製、90～92はR IV類製である。

93・94は石錐である。93は、縦長な剥片素材の打点側を除去して、先端部を断面三角形になるよう加工を施している。R II類製である。94はR III類製である。

95～100は二次加工剥片である。95は縦長な剥片を素材として、表面両側縁からの加工を施している。97は横長な剥片を素材としており、稜からの加工が見られ、角錐状石器とも考えられる。96・100は縦長な剥片を素材としており、96は正面上面両側縁に、100は正面上面左側縁に抉りの入る加工が見られる。95・96はR I類製、97・98はR II類製、99はチャート製、100はh o製である。

101～109は微細剥離ある剥片である。101・103～109は一側縁に、102は両側縁に微細な剥離が見られる。101～103はR I類製、104～106はR II類製、107～109はR IV類製である。

110～128は剥片である。110～113は横長な剥片である。114～128は縦長な剥片である。124は、正面上面に若干の抉りが見られる。110・114～119はR I類製、111～113、120～126はR II類製、127はR III類製、128はh o製である。

129～132は石核である。130は自然面側を打面にして縁辺にそって移動しながら剥離を行っている。129～131はR I類製、132はR IV類製である。

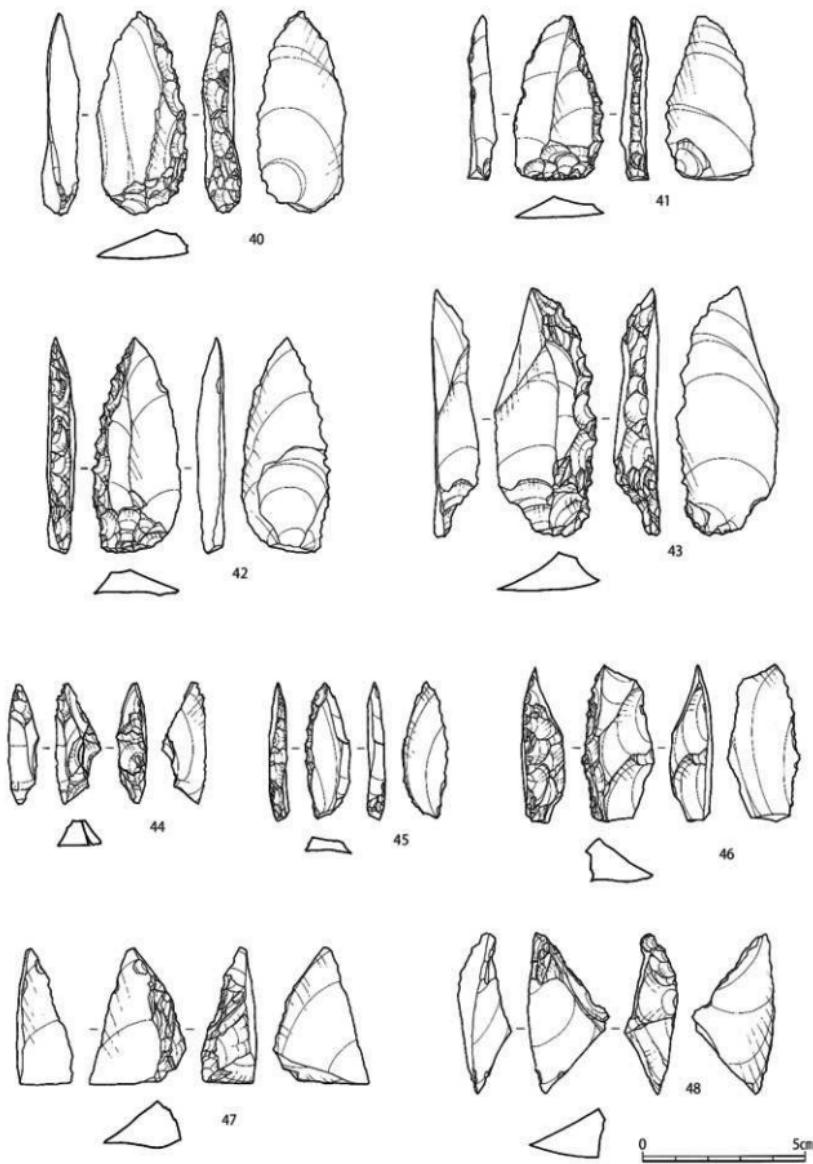
133は敲石である。両端部に敲打痕が見られる。チャート製である。

134は磨石である。左右側面に磨面が見られる。砂岩製である。

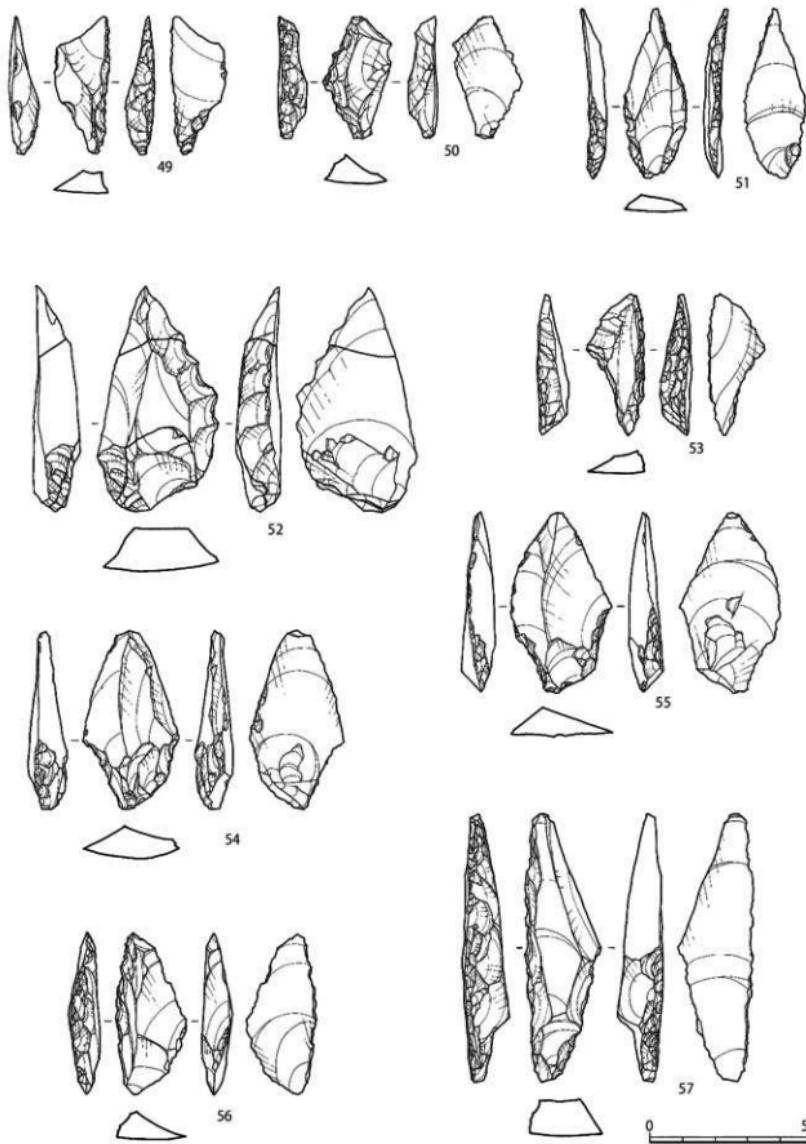
135は台石で、h o製である。

	流紋岩				ホルンフェルス	チャート	砂岩	凝灰岩	花崗岩	黒曜石	合計
	I類	II類	III類	IV類							
ナイフ形石器	8	14	1	0	1	0	0	0	0	0	24
角錐状石器	4	4	0	0	1	0	0	0	0	0	9
剥片尖頭器	1	3	1	1	0	0	0	0	0	0	6
台形石器	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
削器・搔器	7	2	1	3	0	0	0	0	0	0	13
石錐	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	2
二次加工剥片	2	3	0	0	1	1	1	0	0	0	8
微細剥離ある剥片	3	5	0	3	0	0	0	0	0	0	11
剥片・碎片	406	410	49	20	44	23	0	0	0	0	952
石核	8	16	0	2	0	1	0	0	0	0	27
磨石・敲石	0	0	0	0	0	1	1	0	0	0	2
台石	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1
合計	440	458	53	29	48	26	2	0	0	0	1056

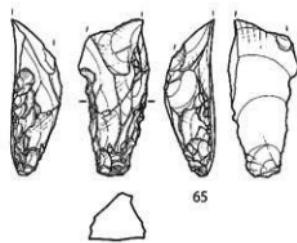
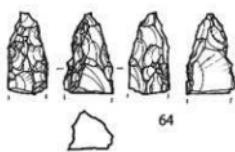
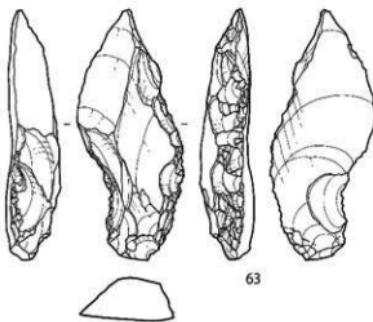
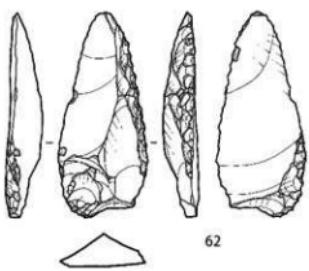
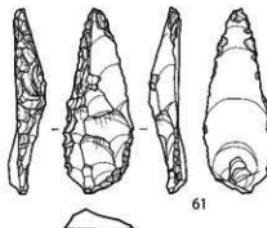
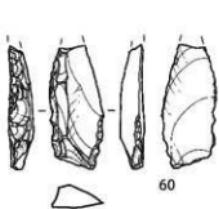
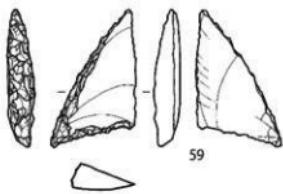
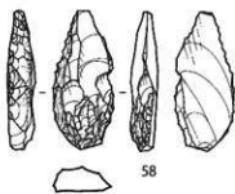
第5表 第III期出土石器石材別組成表



第42圖 第III期石器實測圖1 (S=2/3)

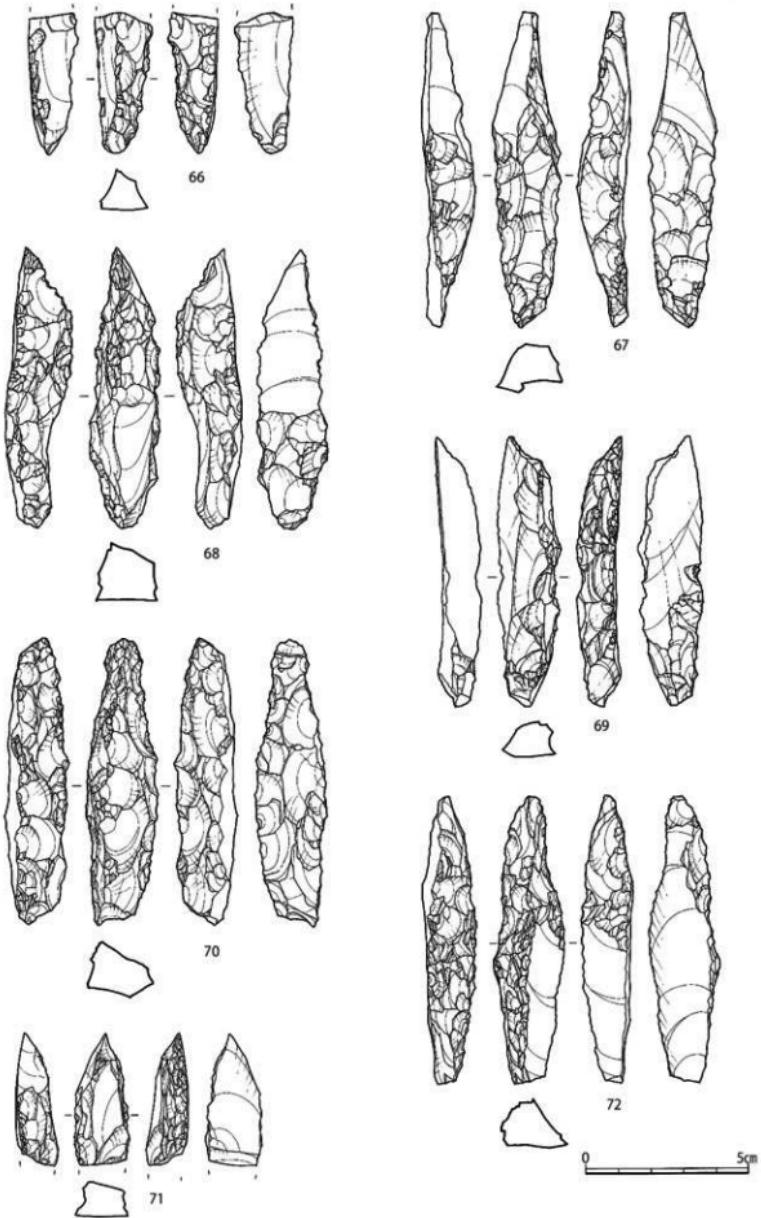


第43图 第III期石器实测图 2 (S=2/3)



0 5cm

第44图 第III期石器实测图3 (S=2/3)



第45図 第III期石器実測図4 (S=2/3)